

地理総合

世界に学び地域へつなぐ

基礎から大学入試まで対応

豊富な題材・鮮度ある情報
地理探究へつながる学習に

令和4年度用
(2022年度用)

二宮書店
内容解説資料

この資料は、令和4年度用高等学校教科書の内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

特色・内容紹介 ➡ p.2-33

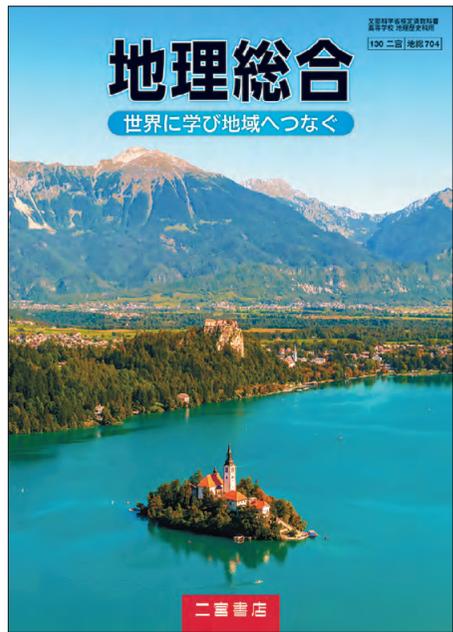
学習者用
デジタル教科書 ➡ p.34-35

準拠版ワークブック
教師用指導書 ➡ p.36-41

デジタル教材 ➡ p.42-43

年間指導計画
評価規準 ➡ p.44-47

二宮書店



地理総合

世界に学び地域へつなぐ

地総704
B5判・240頁

【代表者】

菊地俊夫 東京都立大学名誉教授

【著作者】

田中隆志 群馬県立藤岡中央高等学校教諭

新堀 毅 東京都立日比谷高等学校教諭

松井圭介 筑波大学教授

松山 洋 東京都立大学教授

小林岳人 千葉県立千葉高等学校教諭

時実香奈子 豊島岡女子学園高等学校教諭

中村洋介 公文国際学園中等部・高等部教諭

矢部直人 東京都立大学准教授

株式会社 二宮書店

【編集協力者】

目代邦康 東北学院大学准教授

渡来 靖 立正大学教授

伊東敦子 早稲田実業学校中等部・高等部教諭

北崎幸之助 攻玉社高等学校教諭

佐藤ゆきの 早稲田実業学校中等部・高等部教諭

沼畑早苗 お茶の水女子大学附属高等学校教諭

Message

菊地 俊夫（東京都立大学名誉教授）

地理総合では、地域の自然環境や歴史・文化環境や社会・経済環境を理解し、それらの環境条件を総合して考察して、個々の地域の性格を明らかにするとともに、地域を比較する方法も学びます。とりわけ、地域の生活文化に焦点をあて、対象となる生活文化の特徴が、自然環境や歴史・文化環境、および社会・経済環境から理解できるようになっています。そのため、本書は事例対象の選択や地域を総合的にみるユニークな視点、および地域を比較する体系的な方法や歴史の学びとの関連など多くの点で工夫され、教えやすい教科書となっています。そうはいうものの、地域の生活文化の性格は自然環境や経済環境など、1つの環境条件で短絡的に決まるものではないため、地域の生活文化の性格を複眼視して学ぶことは難しいといえます。しかし、その難しさゆえに地理総合には面白さもあります。生徒は地理総合を通じて地域の自然環境や歴史・文化環境や社会・経済環境を理解し、それらをジグソーパズルのピースのように埋め込んで、地域の性格という絵を完成させていくことでしょ。そのような絵を完成させることこそが生徒にとっての地理総合の学びとなることでしょう。

田中 隆志（群馬県立藤岡中央高等学校教諭）

地理総合では、紙地図や地理院地図などのさまざまなGISを軸に、現代世界や国内諸地域、生活圏の様々な地理的事象について学習していきます。地理を学ぶ皆さんには、この機会に、地図やGISを通して、様々な地理的事象や諸課題について、主体的に情報を収集し、読み取り、まとめ、考察する、地理的な見方・考え方を身に付けてほしいと思います。きっとそれは将来、よりよい社会を切り拓いていくための有効な力となるはずです。

中村 洋介（公文国際学園中等部・高等部教諭）

気候変動、格差、自然災害の増加…。SDGsでは私たちの変容と行動が求められています。本書の豊富な主題図・グラフ・写真を根拠にして、たとえば、森林が減少している地域を探し、減少の理由を考え、「自分ごと」として解決に向けた変容を協議していく。課題解決とともに、国際理解のページでは、イントロの疑問をもとに、世界各地にみられる自然環境と人間社会のつながりや事象の背景をとらえ、多様性の理解とともに疑問を解き明かしていく。このような授業をイメージしています。

地理探究に つながる学習に

1

基礎から大学入試まで幅広く対応。

- これまでの「地理A」との互換性を保ちつつ、新科目「地理総合」の趣旨を踏まえた主題学習が行えるように配慮しました。
- 「地理探究」の基礎となる知識を過不足なく取り上げており、大学入試共通テスト対策としても最適です。

2

4つの視点から学ぶ世界10地域。

- 第3章「世界各地の生活文化」では、世界10地域を「自然」「社会」「経済」「開発」の4つの視点に分けて取り上げました。
- 4つの視点からそれぞれ必要な事例地域を選ぶことにより、学校の特性に応じた多様な教え方に対応することができます。

3

思考力・判断力・表現力を養う題材。

- 1授業時（見開き）ごとの学習事項を明確にするとともに、自ら探究学習を行うための特設ページ「ステップアップ」を設けました。
- SDGs（持続可能な開発目標）に対応した課題を中心に、その背景から解決のための対策まで、思考する力を養います。
- 地理学習を進めていくのに必要な地図・GISの技能が段階的に習得でき、地図や統計を正しく解釈し、判断する力・表現する力を養います。

あらゆる場面で使えるICT教材

弊社ウェブサイト「地理総合教科書」特設ページを開設しました。2～3分程度の教科書紹介動画もございますので、ぜひご覧ください。

二宮書店の
地理総合
特設ページ



ICT教育を
サポート
します!

本文中に設置した計41点の二次元コードからは、動画や地理院地図・Google Earthなどのデジタル地図、学習に役立つ外部サイトなどにリンクします。

教授用指導書DVDには教科書図版集、授業用PowerPointスライド、定期考査問題などのデジタルコンテンツを収録し、授業準備をサポートいたします。➡p.40

さらに、地理・歴史の枠をこえて図版や問題集など9,000点以上の豊富なコンテンツを定額制でご利用できる「山川&二宮ICTライブラリ」をご活用ください。➡p.43

第1章 地図とGISの活用

導入: 地理の扉～現代の世界地図が生まれるまで 12

1 球面上の世界 14
1 位置の基準～地球上の緯度・経度 14
2 時間の基準～時差と標準時 16
2 世界からみた日本の位置と領域 18
1 視点をえてみた日本の位置 18
2 国家とその領域 20
3 海に広がる日本の領域 22
4 日本の領域に関する問題 24
3 国内や国家間の結びつき 26
1 国家間の結びつき 26
2 交通・通信による結びつき 30
3 貿易・物流による結びつき 32
4 観光による結びつき 34
4 暮らしのなかの地図とGIS 36
1 身の回りの地図を集める 36
2 地理院地図の活用 38
3 地図・GISのしくみと役割 42

ステップアップ① ぶらり散歩地図をつくろう。 46

第3章 世界各地の生活文化

導入: 各地域の生活文化と地理的環境のかかわり 88

1 経済発展と生活文化の変化～東アジア 90
1 経済発展を支える自然・農業と生活文化 92
2 市場経済化と生活文化の変化～中国 94
3 輸出による発展と生活文化の変化～韓国 96
4 経済発展による変化と課題 98
2 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国 100
1 多民族社会とASEANの統合 102
2 宗教にねざした生活文化と産業 104
3 多様な宗教・言語と経済統合による課題 106
3 水の恵みと生活文化～南アジア 108
1 河川による恵みと生活文化 110
2 水の恵みによる発展と課題 112
4 イスラム社会の多様性と生活文化～イスラム圏 114
1 乾燥地域とイスラムの社会 116
2 経済発展とイスラムの社会の変化 118
3 イスラム圏の現状と課題 120
5 多様な気候と生活文化～アフリカ 122
1 多様な自然環境と生活文化 124
2 経済成長と自然環境の変化による課題 126

第2章 地理的環境の特色

導入: 写真から読み解く地理的環境の特色 48

1 地形と生活文化 50
1 変動帯とプレート 50
2 河川がつくる地形と生活 52
3 海岸の地形と生活 54
2 気候と生活文化 60
1 大気循環 60
2 気候の地域性 62
3 ケッペンの気候区分 64
4 熱帯の自然環境と生活 66
5 乾燥帯の自然環境と生活 68
6 温帯の自然環境と生活 70
7 亜寒帯・寒帯の自然環境と生活 72
3 産業と生活文化 74
1 農業の発展と生活文化 74
2 工業の発展と生活文化 76
3 商業・サービス業の発展と生活文化 78
4 宗教・言語と生活文化 80
1 宗教の分布と生活文化 80
2 言語の分布と生活文化 82
3 移民と難民 84
4 生活文化の多様性 86

●1 授業時(見開き)ごとの学習事項を明確にするとともに、自ら探究学習を行うための特設ページ「ステップアップ」を設けました。

6 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国 128
1 経済発展の礎となった自然環境と農業 130
2 産業・交通の発達による一体化 132
3 統合を進める背景と言語・宗教の多様性 134
4 経済統合と政治統合の進展と課題 136
7 寒冷な気候と生活文化～ロシア 138
1 寒冷な気候と生活・産業 140
2 寒冷地域の開発による成長と課題 142
8 グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ 144
1 経済発展の基盤となった社会の多様性 146
2 大規模な農業とグローバルな食文化 148
3 グローバル化による変化と課題 150
9 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ 152
1 開発による農牧業の発展と生活文化 154
2 開発による発展と社会にみられる課題 156
10 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア 158
1 植民による開発と生活文化 160
2 移民と多文化社会にみられる課題 162
ステップアップ② 各地域の生活文化を比較してみよう。 164

豊富な題材・鮮度ある情報

地図・GIS

- 地図・GISの基礎的な技能を重視し、アナログ地図とデジタル地図の両方で学習ができるように配慮しました。
●海洋・物流教育に対応し、海底資源や水運に関する題材を掲載しました。

国際理解

※自然・社会・経済・開発から、それぞれ1事例を選んで学習

- それぞれの事例地域の先頭には、多様な自然環境・生活文化をビジュアルに大観できるギャラリーページを設けました。
●自然から産業、文化、現状と課題まで、体系的に学ぶ構成になっています。

国際協力

- SDGs(持続可能な開発目標)に対応し、地球的課題が相互に影響し合っていることを学ぶコラム・特設ページを設けました。
●新鮮な写真・主題図・統計などの題材から、課題の本質に鋭く迫ります。

防災・地域調査

- 地域により異なる自然災害リスクに対応し、さまざまな事例とハザードマップを取り上げ、地図を自作する力も身につけます。
●教科書で学んできた地図・GISの技能を活かして地域の課題に取り組み、地図に表現し、解決方法を提案する力を身につけます。

第4章 地球的課題と国際協力

導入: 相互に関連する地球的課題～SDGs 166

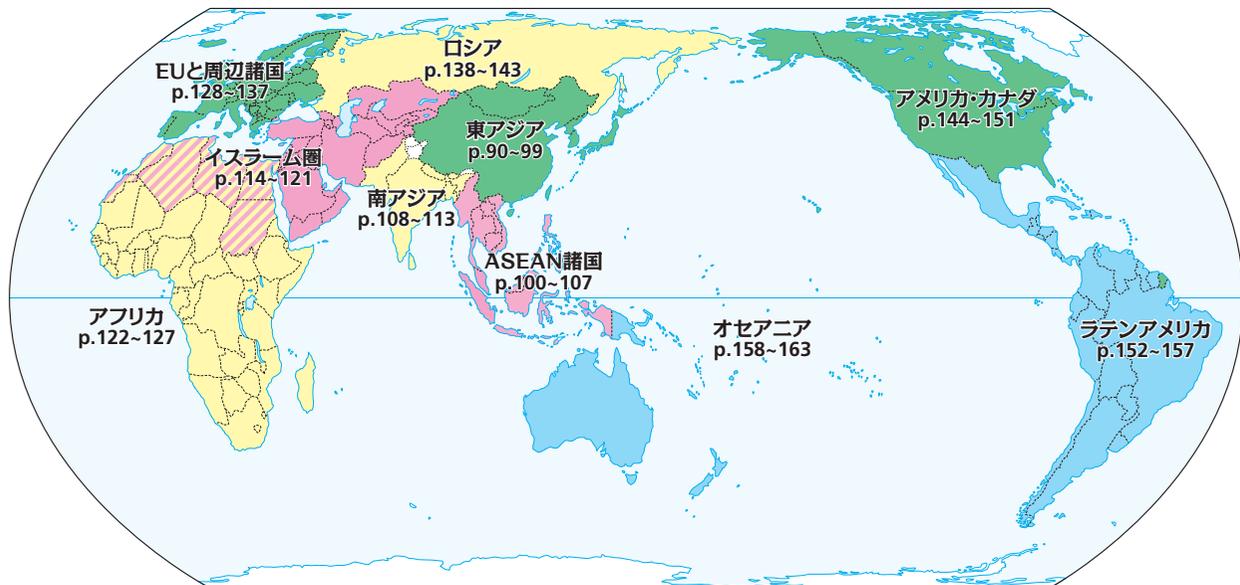
1 地球環境問題 168
1 環境問題と持続可能な社会 168
2 国境を越える汚染 170
3 森林減少・砂漠化とその対策 172
4 気候変動とその対策 174
2 資源・エネルギー問題 176
1 鉱物資源・エネルギー資源とその課題 176
2 資源のリサイクル・再生可能エネルギー 180
3 人口・食料問題 182
1 人口と人口問題 182
2 世界各地の人口問題 184
3 2つの食料問題 186
4 食料問題の背景と解決策～サブサハラ 188
4 居住・都市問題 190
1 発達する都市 190
2 都市への人口集中にともなう問題 192
3 居住・都市問題と都市計画 194
ステップアップ③ 「誰も置き去りにしない世界」を考える。 196

第5章 生活圏の諸課題

1 日本の自然環境と防災 198
導入: 世界地図でとらえる自然災害のリスク 198

1 世界からみた日本の地形の特色 200
2 世界からみた日本の気候の特色 202
3 風水害と防災 204
4 火山の噴火と防災 208
5 地震・津波と防災 212
6 都市型災害と防災 216
7 防災への心構え～自助・共助・公助 218
ステップアップ④ 地図を防災・避難行動に役立てよう。 220
2 生活圏の諸課題と地域調査 222
導入: 地理の力で地域の課題を解決しよう。 222
1 主題図からみた日本の特徴と課題 224
2 地域調査① 事例地域の選定～事前調査 226
3 地域調査② 現地調査～調査地図の作成 228
4 地域調査③ 他地域との比較～まとめ 230
ステップアップ⑤ 地域調査の結果を発信しよう。 232

異文化理解を促す多彩な事例



第3章で着目する地理的環境と事例

地理的環境	着目する事例	節	ページ
自然	水の恵み	③水の恵みと生活文化～南アジア	108～113
	多様な気候	⑤多様な気候と生活文化～アフリカ	122～127
	寒冷な気候	⑦寒冷な気候と生活文化～ロシア	138～143
社会	宗教の多様性	②宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国	100～107
	イスラーム社会の多様性	④イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏	114～121
経済	経済発展	①経済発展と生活文化の変化～東アジア	90～99
	経済統合	⑥経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国	128～137
	グローバル化	⑧グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ	144～151
開発	土地の開発	⑨土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ	152～157
	植民・移民と多文化社会	⑩植民と移民による生活文化の形成～オセアニア	158～163

●自然・社会・経済・開発のそれぞれについて、ふさわしい事例地域を取り上げ、全体として**世界諸地域をもれなく**掲載しています。

●生徒の異文化理解を促すために、**歴史的背景や、現在の生活文化の多様性を重視**して構成しています。

主体的な学習を促す紙面構成

本文ページに出てくる要素

イントロ 見開きで学ぶことについて、着目点を示した導入文です。

まとめと探究 見開きで学んだことの定着をはかり、探究を促します。

豆知識 図表の読み取りの指示や、本文と関連した簡単な作業例を示しています。

情報源 見開きで学ぶことに関連したトリビアや、関連する知識を載せています。

情報源 学んだことに基づき、さらに自ら調べて探究する際に役立つ情報源です。

- 見開きごとに「**イントロ**」「**まとめと探究**」を設け、学習事項を明確化しました。
- 写真やコラムには、**アニメや音楽、料理など、身近な題材**を多く揃えました。
- 好奇心や探究を促す「**豆知識**」「**情報源**」をそれぞれ**82点**掲載しました。

→次ページからの
**見開き見本を
ご覧ください。**

生徒の興味・関心を引くコラム



より深く、楽しく地理を学習するためのトピックを集めたコラムです。

飛び地だらけの町～ベルギーとオランダの国境 …	21	インドネシアのイスラーム …	105
日本の内航海運 …	33	インドカレーの地域性 …	111
外国人観光客への対応 …	35	バザールとモスク …	117
地図でオリエンテーリング …	37	ドバイの発展 …	119
熱帯低気圧 …	67	アフリカの輸出向け漁業 …	125
アラル海の悲劇 …	69	おしゃれなサブール …	126
地球の反対側からやってくるチリの果物 …	71	コートダジュールのパカンス …	135
高山地域の暮らし …	73	イヌイットの暮らし …	147
平成日本・ヒット商品の変化を考える …	79	「オージービーフ」の好みも変わる …	161
インドの複雑な祝祭日 …	83	オゾン層の破壊 …	170
難民問題と日本の関わり …	85	「緑の長城」計画 …	173
日系ブラジル人との交流 …	87	スマートグリッドの導入 …	181
中国・朝鮮半島の食文化と香辛料 …	93	フランスの少子化対策 …	185
北朝鮮の現状 …	97	日本と台湾との相互支援 …	219
東ティモールの現状 …	103		



世界の各地域と日本の、産業や生活文化のつながりを紹介するコラムです。

台湾と日本の交流 …	99
マレーシアで親しまれている盆踊り …	107
バングラデシュでの水道事業支援 …	113
日本で暮らすムスリム …	121
ケニア産の切り花 …	127
パリのリトルトーキョーとラーメン人気 …	137
アムール川と親潮 …	143
日本とアメリカで共同開発する航空機 …	151
カリブ海の音楽と日本 …	157
オーストラリアの高校生と日本語 …	163



SDGs(持続可能な開発目標)に関連した課題について、相互のつながりを考えるコラムです。

気候変動への緩和策と適応策 …	175
人口問題と食料問題のつながりを考える …	189
都市問題のつながりを考える …	193



自然災害と向き合い、様々な工夫をしてきた先人たちの歴史的な取り組みを紹介するコラムです。

輪中と水屋 …	205
天地返し …	209
自然災害伝承碑 …	213



地理を学習し、課題に関する資料をまとめるために必要な技能を、段階を追って身につけます。

世界各地の時差を計算してみよう …	17
写真と地図で見る日本の東西南北端 …	23
p.14 ← 主題図・グラフの読み方 …	28
地理院地図・地形図の見方 …	40
地理院地図・地形図の読図① 海岸段丘 …	56
地理院地図・地形図の読図② 砂州と潟湖 …	57
p.16 ← 地理院地図・地形図の読図③ 扇状地 …	58
雨温図とハイサーグラフ …	65
国際機関から情報を収集する …	169
写真や統計から発電所の立地条件を考える …	179
人口ピラミッドを読み解く …	183



GIS(地理情報システム)を活用して、主題図を読み解いたり、作成したりする技能を身につけます。

GISで街の特徴をさぐってみよう …	44
地理院地図・地形図の読図④ 自然堤防 …	59
WebGISで大気汚染の状況を知る …	171
通勤圏・通学圏を地図化する …	191
新旧地形図の比較から水害を考える …	206
噴火ハザードマップを読み解く …	210
地震・津波ハザードマップを読み解く …	214
階級区分図の作成 …	225

1 地形と生活文化

景色の違いはどこから来るのだろう、暮らしとどんなふうにつながっているのだろう？

ポイント①
基礎から
大学入試まで対応

写真や図解によるビジュアルな構成で、
基礎的な事項をわかりやすく示しています。



↑1 アルプス山脈の山岳観光地(スイス・ラウターブルンネン, 2018年8月撮影)



↑2 カムチャツカ半島のカリムスキー山の噴火(ロシア, 2016年11月撮影) 一帯は自然保護区になっていて、世界自然遺産にも登録されている。



↑3 アイスランドのギャオ(シングヴェトリル国立公園, 2018年7月撮影) プレートの境界の海嶺が陸上にあらわれていて、火山もある。世界最古の近代議会「アルシング」が開催された場所で、世界文化遺産に登録されている。

1 変動帯とプレート

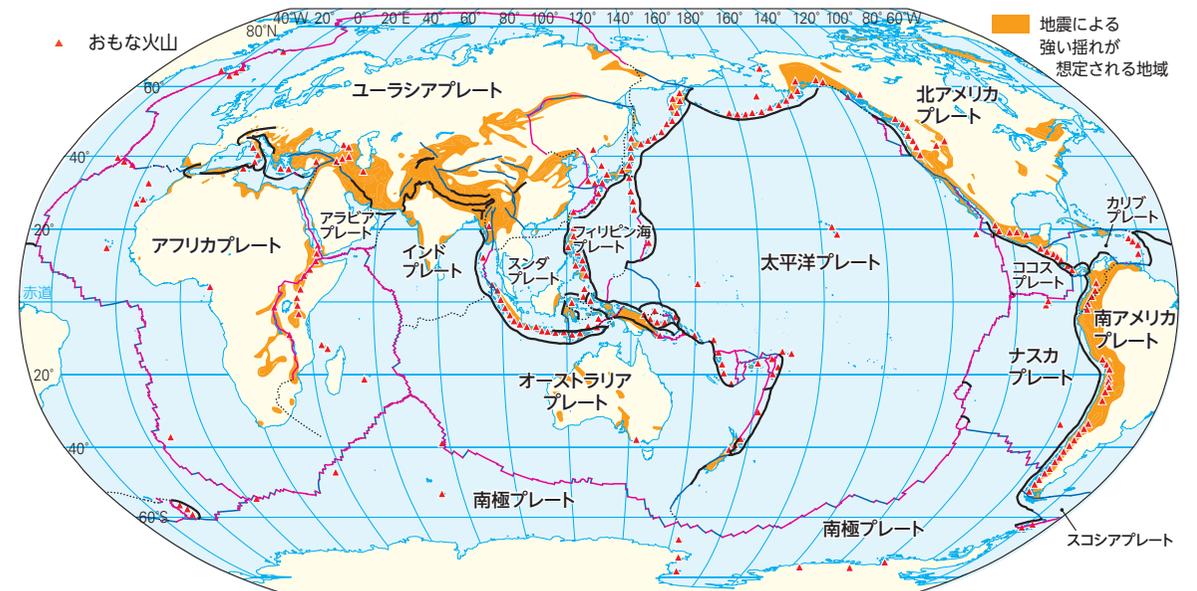
イントロ
地球には陸地にも海底にも凹凸があり、複雑な地形になっている。なぜそのような地形が生まれたのだろうか。

イントロ
見開きで学ぶことについて、着目点を示した導入文です。

① 変動帯
地殻変動や火山活動が活発な帯状の地域をいう。

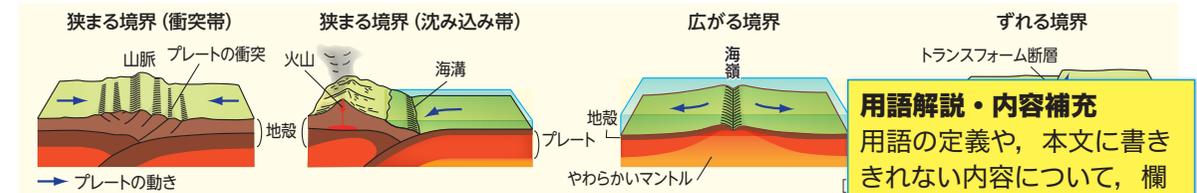
地形をつくる力
地形をつくる力には、**内的営力**と**外的営力**がある。
内的営力は地球内部の熱エネルギーによる力で、土地を隆起、沈降、移動させたり、火山活動をおこしたりする。内的営力が強く働く地帯を**変動帯**とよび、ここでは**地震**や**火山の噴火**が多発している(写真2)。外的営力は太陽エネルギーと地球の重力をエネルギー源にした力で、川や海などの水の流れや、氷河をつくったり風をおこしたりして、内的営力によってつくられた地形を**侵食**する。侵食により生まれた土砂は**運搬**され**堆積**して、長い時間をかけて地形をなだらかにしていく。

豆知識 世界の最高地点と最低地点の標高差は？ 世界の最高地点はエベレストの8,848m。最低地点はマリアナ海溝のチャレンジャー海淵の-10,920m。その差は19,768mもある。



プレートの境界 — 狭まる境界 — 広がる境界 — ずれる境界 不確かな境界 [出所: USGS Earthquake Hazards Programほか]

↑4 プレートの境界 プレートの境界でも、狭まる境界の沈み込み帯では火山の噴火や地震が多い。



↑5 プレート境界の型
四つのプレート境界の模式図。火山はどのような場所にみられるかを確認しよう。

プレートテクトニクス
地球の表面は、厚さ数十~100kmほどのプレートとよばれる岩盤で覆われている。プレートは図4のように十数枚に分かれていて、地球内部の対流によって移動するという考え方を**プレートテクトニクス**という。

プレートの境界は、四つの型に分けられる(図5)。二つのプレートが近づくとところを**狭まる境界**といふ。いずれも地震活動が活発で、衝突帯が増してヒマラヤ山脈やアルプス山脈ができる。日本海溝などの沈み込み帯では、沈み込んだ岩石が融けてマグマを生むため、海溝の大陸側に火山活動がおこる。

二つのプレートが離れるところを**広がる境界**といい、地下のマントルからマグマが上昇し、新しい岩石が生まれることで**海嶺**や**地溝帯**ができる(写真3)。二つのプレートが互に行き交う境界は**ずれる境界**といい、大きな断層が生まれる。プレート境界から離れたところになだらかな地形になっていて、地震

情報源 今日はどこで地震が発生している? 「Today's Biggest Earthquakes」というウェブサイトでは、当日に世界で発生した地震の震源を地図上に表示することができる。

用語解説・内容補充
用語の定義や、本文に書ききれない内容について、欄外で丁寧に説明しています。

① プレート
海洋プレートは大陸プレートより比重が大きいため、両プレートが衝突すると、海洋プレートが沈み込む。そこに海溝が生まれ、沈み込みによる反動で地震がおこる。

図4と地図帳の地形のページを比較し、海溝、海嶺、起伏のある山地とプレートの境界の関係を確かめよう。

まとめと探究
A せばまる境界と広がる境界にはどのような地形がみられ、地震と火山はどのような関係にあるか、まとめてみよう。
B 起伏のある山脈の周辺や火山のある地域の暮らしには、どのような自然の恩恵があるか、調べてみよう。

まとめと探究
2つの問いにより、見開きで学んだことの定着をはかり、探究を促します。

2 気候と生活文化

気候の違いと世界の多様な生活文化は、どのように関わりあっているのだろうか？

読み解くことで知識・技能が身につく「地理写真」を、大きく掲載しました。



↑1 トンレサップ湖の雨季と乾季
(カンボジア、左は2018年10月、右は2019年3月撮影)



↑2 タピオカチップスを売る店
(インド・ケララ州、2018年2月撮影)



↑3 セーターや靴下を売る店
(エストニア・タリン、2012年3月撮影)

1 大気の流れ

イントロ

気候の違いをもたらす気候因子に
気候とは 気象が短期間の大気の状態をあらわすのに対し、気候は、どのようなものが
か？

二次元コード(計41箇所に掲載)

地域で1年周期で繰り返される大気の状態をあらわすのに対し、気候は、どのようなものがか？
動画や写真、関連ウェブサイトへのリンクや、資料のダウンロード先を載せています。

地域で1年周期で繰り返される大気の状態をあらわすのに対し、気候は、どのようなものがか？
特徴づけ、地域差をつくるのが気候要素

で、気温や降水量、風向、風速、湿度などがある。気候要素に影響を与えているのが気候因子で、緯度や標高、海陸分布、地形、海流、海岸からの距離などがある。こうした気候因子の違いが、気候の特色や違いを生み出す。

豆知識(計82箇所に掲載)

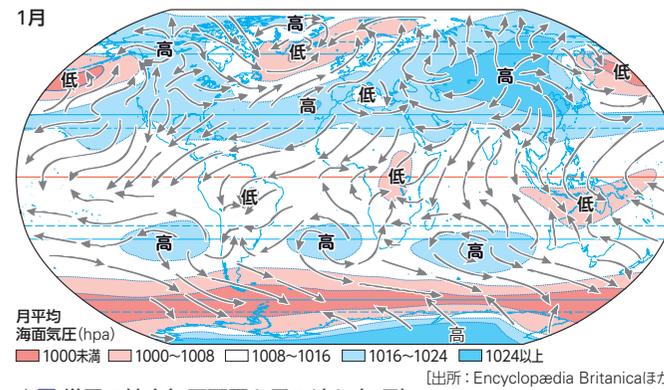
見開きで学習することと関連したトリアや補足情報を載せています。

豆知識 火山の噴火が気候を変える？ 大規模な火山噴火が起きると、噴出物によって日射が遮られ気温が下がる。1993年の日本の冷夏は、2年前のフィリピンのピナツポ山の噴火が原因だった。

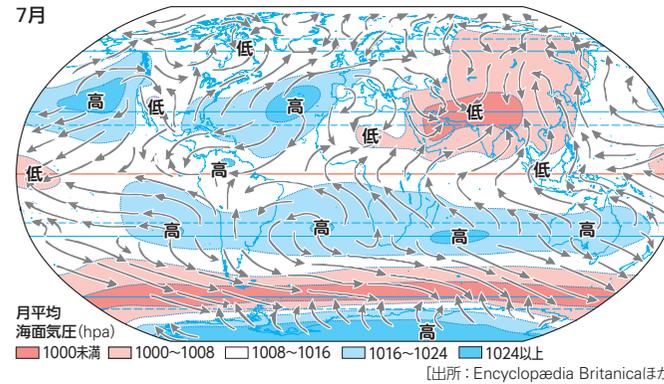


●カンボジアのトンレサップ湖の周辺を、写真を切り替えながら表示してみよう。

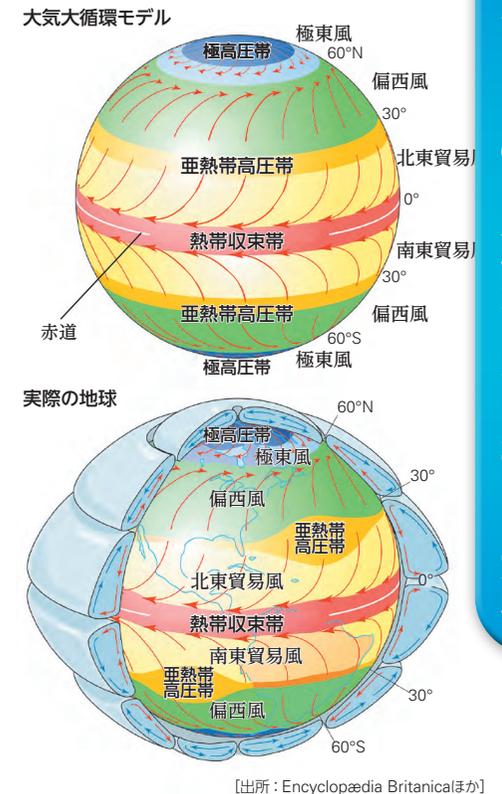
●写真1~3から読み取れる特徴を、書き出してみよう。



↑4 世界の地上気圧配置と風の流れ(1月)
(大陸側の高気圧→海洋側の低気圧)



↑5 世界の地上気圧配置と風の流れ(7月)
(海洋側の高気圧→大陸側の低気圧)



↑6 大気の大循環

大気の大循環は、太陽から受けた熱エネルギーを、低緯度から高緯度へと運び役割を果たしている。

地球をめぐる大気の大循環 図4と図5は、それぞれ北半球における冬(1月)と夏(7月)の、地上付近の大気の流れを模式的にあらわしている。北半球と南半球の亜熱帯高圧帯からは、それぞれ北東貿易風と南東貿易風が吹き出し、熱帯収束帯(赤道低気圧)に集まっている。そのため、熱帯では湿った空気が上昇気流となって降水量が多くなる。一方、亜熱帯高圧帯からは高緯度側に偏西風が吹き出し、極高圧帯からも極東風が吹き出している。両者がぶつかる場所に寒帯前線が発生する。ここでは亜熱帯高圧帯からの暖気と極地からの寒気が接するため、降水量が多くなる。

気候の季節変化 熱帯収束帯と寒帯前線に挟まれた亜熱帯高圧帯や、寒帯前線の極側の極高圧帯では、空気が下降気流になるため降水量は少なくなる(図6)。この気圧帯は、北半球では夏には高緯度側に、冬には低緯度側に移動する(図4と図5)。そのため、地域によっては、夏は高圧帯に入り冬は低気圧に入るところ

情報源(計82箇所に掲載) 自ら調べて学習する手がかりとなるウェブサイトや資料を紹介しています。

情報源 世界の地点別気候データを手にするには？ 気象庁のウェブサイトから、各種データ・資料>地球環境・気候>世界の天候>と入っていけば、地点別の平均値がわかる。

① 偏西風とジェット気流 偏西風の上空約1万mのあたりには、ジェット気流とよばれる流れの速い西風が吹いている。そのため、航空機も、日本からアメリカに行くときより、アメリカから日本に来るときの方が、飛行時間が長くなる。

●図4と図5から、アジアでは雨季になるのはいつか、考えてみよう。また、南アメリカのアマゾン川流域ではどうなるだろうか？

まとめと探究

- A 自分たちが暮らしている地域の1月と7月の気候の違いを調べてみよう。
- B 自分たちが暮らしている地域の気候の特徴を調べ、説明しよう。

3 産業と生活文化

私たちの暮らしを支える産業は、どのように発達し、変化していったのだろうか？

基礎的な知識を過不足なく掲載しており、地理探究につながる実力が身につきます。



↑2 牧草地での放牧(企業の農業)(オーストラリア・タスマニア島, 2018年7月撮影) 大規模な牧草地で牛の放牧を行っている。



↑3 都市近郊の野菜栽培(土地集約的な商業的農業)(ドイツ・ライヒェナウ島, 2018年3月撮影) さまざまな種類の作物が、集約的に栽培されている。

↑1 稲の栽培(労働集約的農業)(インド・タミルナドゥ州ティルヴァンナーマライ, 2017年6月撮影) 機械化が進んでおらず、田植えも人手によっている。

1 農業の発展と生活文化

イントロ

地域の環境に適応し、農業はどのように発達していったのだろうか。

重要用語を精選した本文

地理学習の基本となる用語を太字で強調。地理探究へとつながる系統的な知識が過不足なく身につきます。

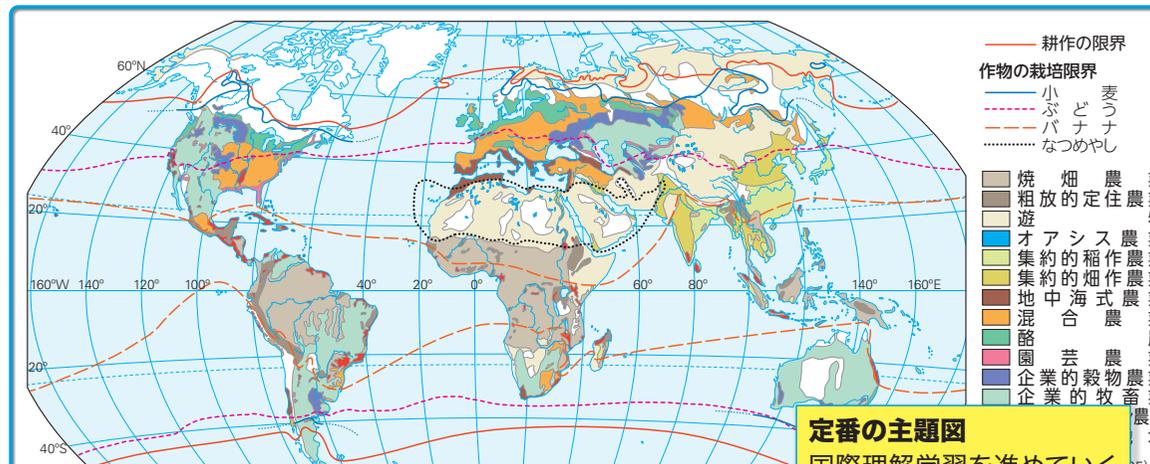
① プランテーション農業
輸出用の亜熱帯作物や熱帯作物を大規模に単一栽培する農業。

農牧業の発達

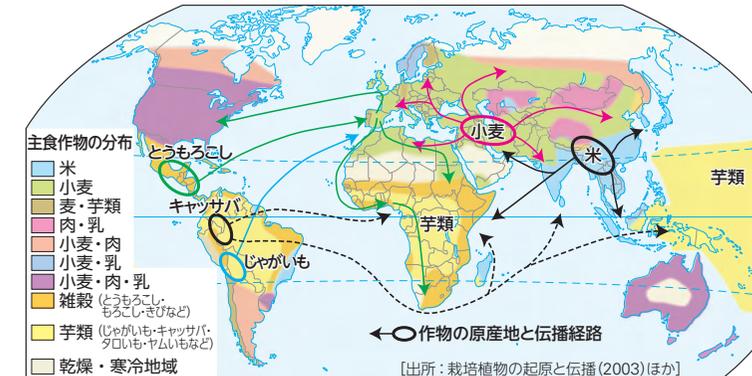
農業は、生産する目的によって**自給的農業**と**商業的農業**に大きく分けることができる(図4)。自給的農業は、主に家族によって生産し消費する農業で、森林を伐採し、火入れした畑で雑穀類や芋類を栽培する**焼畑**や、乾燥地域の水の得やすい場所で小麦やなつめやしを栽培する**オアシス農業**、さらに、アジアの稲作・畑作農業のような労働集約的農業(写真1)がある。

一方、販売を目的とする商業的農業の典型は、機械化された大規模な**企業の農業**で、北アメリカなどの**穀物メジャー**による**企業の穀物農業**や、オーストラリアなどの**牧牛**、**牧羊**による**企業の牧畜業**(写真2)に代表される。土地集約的な商業的農業には、穀物栽培と家畜飼養を組み合わせた**混合農業**や、穀物栽培と家畜飼育、果樹栽培を組み合わせた**地中海式農業**、都市近郊で野菜や果物、**花卉**などを栽培する**園芸農業**がある(写真3)。

豆知識 バナナは調理して食べるもの？ アフリカや中央アメリカなどの熱帯地域では、青いままのバナナを揚げたり蒸したりして、主食として食べる。



↑4 農業地域区分と作物の栽培限界 アメリカの地理学者ホイットルサーが、世界や、作物と家畜の生産方法、生産物の用途(自給用と販売用)などから区分した。



↑5 地域別にみた主食の違い 米は温暖多湿で、大河川沿いの低地で栽培されている。麦類は米と比べて低温や乾燥に強い。

定番の主題図
国際理解学習を進めていくにあたり、自然条件・社会条件を系統的に押さえるための主題図を掲載。



↑6 春小麦の栽培(カナダ・ブリティッシュコロンビア州ピースリバー, 2017年6月撮影) 低温処理により冬小麦を春に種まきできるように改良した結果、小麦栽培の地域がひろがった。

農業の地域性と食文化

主食となる食材を生産することは、農業の重要な目的である。毎年、安定して大量に収穫できること、また、運搬しやすく、貯蔵性に優れていることなどが、主食となる食材の基本的な条件である。しかし、主食の栽培は、土地の地形や気候、土壌など自然環境に左右される(図5)。米と小麦、とうもろこしは主食の食材としての条件に最も適合している。そして、食文化は、主食となる食材が何なのかにより違ってくる。

グローバル化と技術革新

さまざまな技術革新によって自然環境の制約を克服することで、農業が発展した地域も多い。例えば、小麦は品種改良や技術革新によって、気温が低く本来は冬を越せないヨーロッパ北部や北アメリカ北部にも広がった(写真6)。オーストラリアの**酪農**は、乾燥に強い牧草の開発や、効率的な放牧方式、さらに搾乳技術の革新や冷凍輸送船の就航によって生乳生産を増大させた。また、中国の東北地方では、**品種改良**によって寒冷地に適したとうもろこしが開発され、生産量は飛躍的に向上した。

情報源 世界と日本の伝統的な農業を調べるには？ FAOは伝統的な農林水産業を営む地域を「世界農業遺産」に認定しており、日本の農林水産省のウェブサイトには認定地域のリストがある。

① 主食

日常の食事のなかで、主要な炭水化物の供給源となるもの。穀物や芋類が代表的。

最新の動向を掲載

国際社会の動向を踏まえ、技術革新や経済発展による産業の変革を積極的に取り入れました。

まとめと探究

- ① 主な国について、主食と農業地域区分の関係をまとめてみよう。
- ② 世界各地の、米を使った料理、小麦を使った料理について調べてみよう。

5 多様な気候と生活文化～アフリカ

自然 多様な気候のもとでは、営まれる生活文化に違いはあるだろうか？



ポイント② 4つの視点から 学ぶ世界10地域

「南アジア」「アフリカ」「ロシア」を
「自然」の視点から取り上げました。



二次元コード(第3章)
Google Earthとリンクされており、
写真の事例地域を俯瞰できます。



↑1 伝統家屋と家畜(2013年2月撮影) 乾燥地域では、遊牧民が牧草を求めて移動しながら家畜を育てる暮らしをしていたが、現在は定住も進んでいる。

←2 ソルガム(もろこし)の脱穀(2013年2月撮影) 乾燥したブルキナファンの北部ではとうもろこしが育ちにくいので、主食用にソルガムが栽培されている。

←3 ひょうたんに入れた牛乳(2013年2月撮影) 乾燥に強い作物と牧畜の複合農業が営まれ、生乳や乳家もみられる。

世界を旅して ブルキナファン

世界を旅して

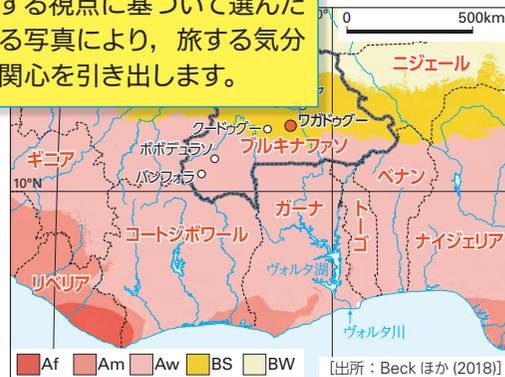
各地域を学習する視点に基づいて選んだ臨場感あふれる写真により、旅する気分ですら異文化への関心を引き出します。

西アフリカ・ブルキナファンにある小さな村を訪ねました。根と土壁の家屋が印象的な村で、主食はソルガム(もろこし)で、料理には牛乳が使われていました。



調べてみよう

- ① 地図帳で、ブルキナファンの位置を確認しよう。
- ② 右の気候区分図で、ブルキナファンの気候を確認しよう。
- ③ 宗教地図で、ブルキナファンの宗教を確認しよう。



↑4 ブルキナファンの気候区分図

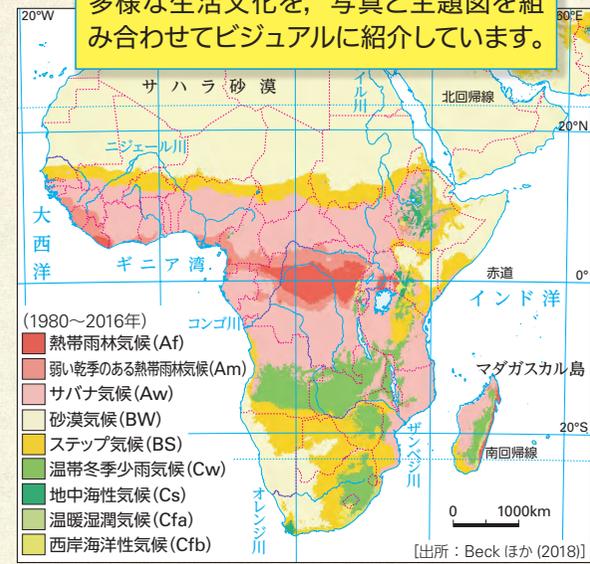
多様な生活文化 アフリカの気候と食文化



南北に長く広がるアフリカには、熱帯、乾燥帯、温帯とさまざまな気候が分布します。人々の暮らしも地域ごとに違いが大きく、多様な食文化がみられます。

多様な生活文化

世界各地域の、衣食住をはじめとする多様な生活文化を、写真と主題図を組み合わせてビジュアルで紹介しています。



↑5 タジン鍋を使った料理(モロッコ, 2014年12月撮影) 独特な形の土鍋で、香辛料をかかせた肉と野菜を蒸し上げる。食材の水分だけで調理でき、乾燥地域に適した調理法といえる。

↑6 アフリカの気候区分 低緯度でも、標高が高い地域では温帯気候が分布するが、乾季の違いによりCw気候やCs気候になる。



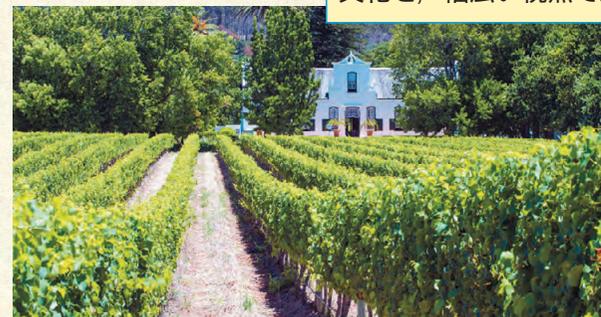
↑7 バナナを蒸すかまど(ウガンダ, 2018年1月撮影) プランテンバナナは茹でたりして食べる。ウガンダで



農業と食文化の多様性

気温や降水といった自然の恵みを利用したり、不利な条件を克服したりして育まれている食文化を、幅広い視点で紹介しています。

↑8 オープンな農地(マダガスカル, 2018年1月撮影) 野菜が栽培されているが、ほとんどは野生で育っている。



↑9 南アフリカのぶどう畑(ケープタウン, 2015年12月撮影) 南アフリカ共和国の南西端は地中海性気候で、南半球ではチリやオーストラリアと並ぶ世界有数のワインの生産地。



↑10 バニラ豆の天日干し(マダガスカル, 2018年1月撮影) バニラ豆は高温多湿なインド洋の島々で栽培されている。マダガスカルは世界最大のバニラ輸出国。

学習の流れ

- ① 多様な自然環境のもとでの、農業と食文化の関連について学ぶ。
- ② 経済成長による生活文化の変化と、その課題について考える。

2 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国

社会 多様な宗教や言語がみられる地域では、その違いをどう乗り越えたか？

「ASEAN 諸国」「イスラーム圏」を「社会」の視点から取り上げました。



↑1 托鉢する修行僧 (2019年6月撮影) 運河を小舟で移動しながら食事の施しを受けている。修行中は、朝と昼前の2回だけ食事が許される。

←2 ワットポー (2018年8月撮影) チャオプラヤ川沿いにある仏教寺院で、16世紀に建てられた。中国とタイの建築様式が融合している。

←3 市街地にあるヒンドゥー教の祠 (2017年3月撮影) タイは仏教国であるが、ヒンドゥー教の影響も強く受けていて、仕事運や金運を祈る人が多い。



↑4 バンコクの位置図
チャオプラヤ川沿いに発達した都市である。

世界を旅して タイ・バンコク



タイには仏教徒が多く、寺院も日本と比べると色鮮やかできらびやかです。暮らしのなかに仏教が深く根ざしているようですが、タイ特有の生活文化にはどのようなものがあるでしょう？

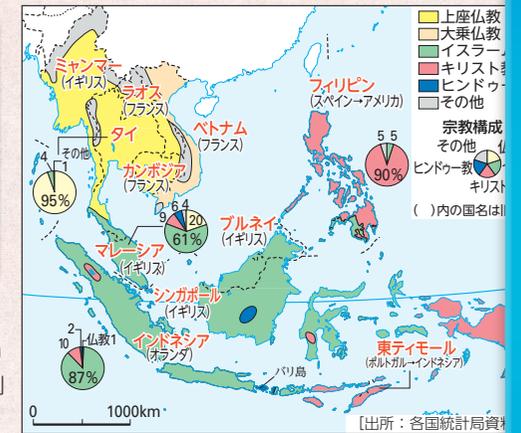
調べてみよう

- ① 地図帳で、バンコクの位置を確認しよう。
- ② 統計資料から、タイの宗教人口の比率を調べてみよう。
- ③ タイと日本の仏教や僧のくらしの違いを調べてみよう。

多様な生活文化 東南アジアの宗教と祭り



東南アジアには、さまざまな宗教を信仰する人々が暮らしています。各地の祭りの様子をとらえた写真を見ると、各地の自然環境や、宗教を含む生活文化が、祭りの儀式や祈りのようすに反映されていることがわかります。



→5 東南アジアの宗教分布 ヒンドゥー教や仏教、イスラーム、キリスト教が、長い歴史のなかで混ざり合っ、複雑な分布になっている。イスラームが圧倒的な地域でも、少数派としてほかの宗教もみられる。



↑6 ビエンチャンのタートルアン祭り (2019年11月6日撮影) 11月(陰暦12月)の満月最大の仏教の祭りで、タートルアン僧侶や参拝者が集まる。



宗教の多様性

「ASEAN諸国」では宗教の違いによる祭りの多様性、「イスラーム圏」では地域の違いによるムスリムの多様性に注目しています。

祭(フィリピン、2019年1月6日撮影) キリスト像) を乗せた山車をトラックの祭り。ナザレ像は、フィピンに持ち込まれた。



↑8 バリ島のガランガン (インドネシア、2019年1月3日撮影) ヒンドゥー教で祖先の霊を迎える日。1年を210日とするバリ特有のウク暦で行われるため、年に2回めぐってくる。果物や肉などを寺院に供えて祈る。



↑9 ラマダーン明けの祈り (インドネシア・アチェ州、2018年6月15日撮影) イード・アル=フィトルとよばれるイスラームの祭り。30日続いたラマダーン(断食月)明けに、祈りを捧げている。

学習の流れ

- ① 多様な宗教・言語の国々が統合を進めていった背景について学ぶ。
- ② 特色ある産業や生活文化と、宗教の関わりについて理解する。
- ③ 多様な地域が統合を進める際の課題と、多文化共生について考える。

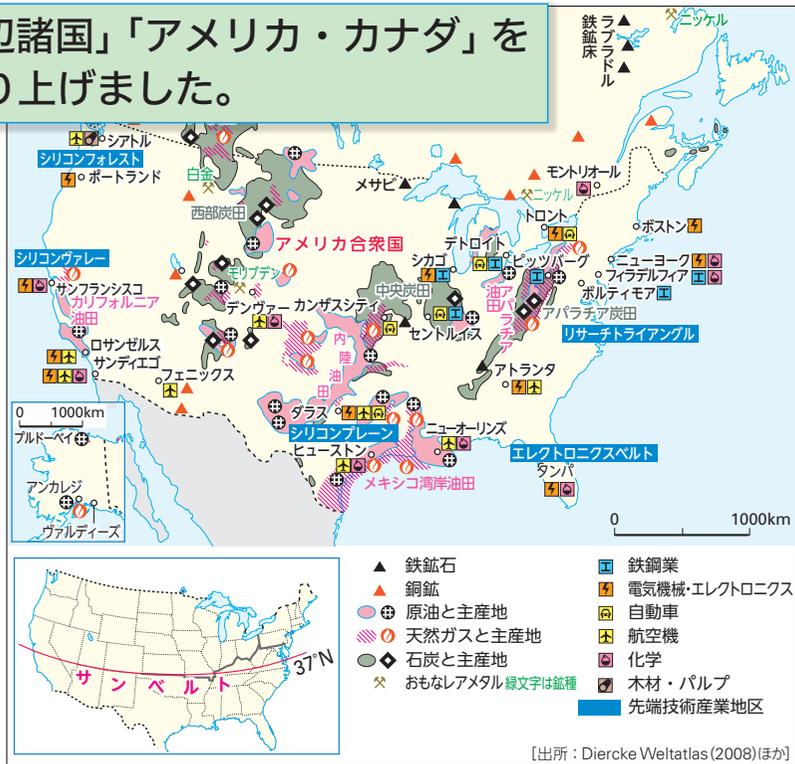
「東アジア」「EUと周辺諸国」「アメリカ・カナダ」を「経済」の視点から取り上げました。



↑1 デトロイトの廃工場（ミシガン州、2018年4月撮影） 自動車の王国だったが、2013年に財政破綻した。現在は再建の途にある。



↑2 ICT企業の本社ビル（カリフォルニア州、2017年4月撮影）



↑3 アメリカ・カナダ南部の資源と産業

3 グローバル化による変化と課題

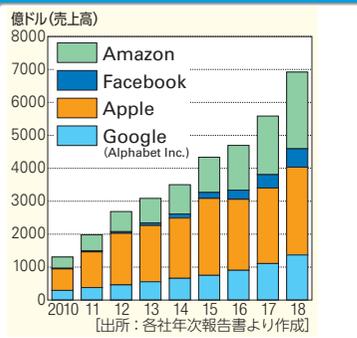
工業地域の変化 アメリカやカナダは鉱産資源に恵まれていて、早くから工業が発展した。アメリカの五大湖周辺ではメサビ鉄山の鉄鉱石と、アパラチア炭田や中央炭田の石炭が五大湖の水運で結ばれ、鉄鋼や機械類、自動車などの重工業が発達した。

技術革新による生活文化の変化 世界経済を牽引する中国、EU、アメリカを中心に、経済統合、グローバル化、技術革新による変化を、写真・統計・本文を適切に組み合わせ、歴史的な背景とともに紹介しています。

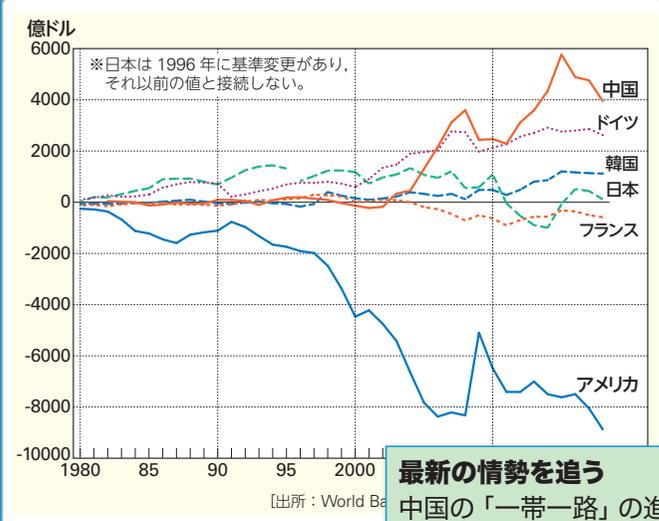
競争力が弱まった。工場はメキシコなどに移転し、衰退した工業地帯はラストベルトと呼ばれるようになった。

ICT産業の発展と生活文化の変化 1990年代に入ると、ICT（情報通信技術）産業や航空宇宙産業などの先端技術産業が発達した。先端技術産業は、温暖で良好な経済環境を求めて、北緯37度以南のサンベルトと呼ばれる地域に集中している。また、先端技術産業の研究開発部門は、郊外の大学や研究機関の近くに立地する傾向がある。GAFGAとよばれるアメリカの4大企業は、世界のICT産業を牽引し、スマートフォンやSNSの普及とともに、世界の人々の暮らしとビジネスに変革をもたらしている。

イントロ
産業構造の変化やグローバル化が人々の暮らしにもたらした変革と、それに伴う課題について考えてみよう。



↑4 4大ICT企業の成長
アメリカに本拠としている4大ICT企業の、Google, Amazon, com, Facebook, Appleを総称してGAFGAとよんでいる。



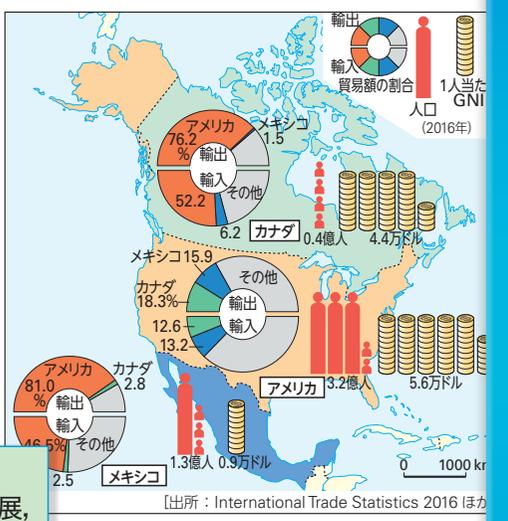
↑5 おもな国の貿易収支の推移

揺れる自由貿易体制 アメリカは、なかで多国籍企業を

展開してきた。しかし、競争力を失った製造業などが発展途上国に工場を移転すると、失業者が増加し貿易赤字が増大した。そこで、自国産業を復活、活性化するために、自由貿易に一定の歯止めをかけ、保護貿易の政策を打ち出すことになった。

1994年、アメリカ、カナダ、メキシコの3か国はNAFTA（北米自由貿易協定）を締結して域内関税を撤廃し、EUに匹敵する大きな経済圏を発足させた。しかし、2018年には原産地規則を強化したUSMCA（アメリカ・メキシコ・カナダ協定）を締結した。さらに、アメリカはTPP（環太平洋パートナーシップ）協定からも離脱した。こうした動きは、自由貿易の拡大をめざす日本にとっては大きな懸念材料になっている。

最新の情勢を追う
中国の「一帯一路」の進展、イギリスのEUからの離脱、アメリカなどのUSMCAの締結といった、国際情勢の変化をとらえています。

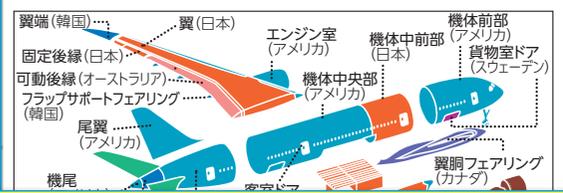


↑6 USMCAを構成する3か国の比較

- 1 USMCA
自動車を無関税で輸出する際、材料の一定部分を北米原産とし、賃金を一定水準に引き上げるなどの条件が設けられた。
- 2 TPP
環太平洋の国々の間で、関税やサービス、投資の自由化をめざす協定。アメリカが離脱したため、11か国によるTPP11協定が発効した。

まとめと探究
A グローバル化が進むなかで、自由貿易と保護貿易の間での葛藤がみられる理由を考えてみよう。
B 巨大ICT企業のサービスが、私たちの生活文化に与えた影響について調べてみよう。

日本とアメリカで共同開発する航空機



「ツナガリジャパン」
世界各地域と日本との間の経済や文化の結びつきの事例を、多様なテーマで紹介しています。

↑7 日本とアメリカなどが共同開発した航空機
機体の約35%の部分を日本企業が生産している。

経済のグローバル化によって、企業活動にも国境がなくなっている。そのため、一つの製品を一つの企業が完成品として製造するよりも、いくつかの部分に分けて製造の方が技術面でもコスト面でも効率がよいため、国際分業による分割生産が行われている。例えば、アメリカに本社がある航空機メーカーが販売する大型飛行機の場合、機体の約70%をイギリスやフランス、イタリア、日本、韓国などの海外企業が開発、生産している。日本からも数十社が参加し、主翼や中央胴体部分などの製作を担当している。

豆知識 カナダにもメジャーリーグのチームがある？ 2005年以降、トロント・ブルージェイズが唯一のMLBチームだが、過去にはエクスポズがモントリオールを本拠地にした。

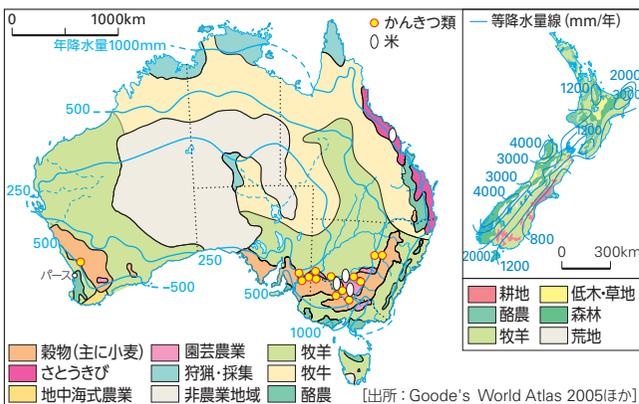
情報源 内閣府「世界経済の潮流」 年2回発行されており、アメリカ経済の動向もまとめられている。内閣府のウェブサイトよりダウンロードすることができる。

「ラテンアメリカ」「オセアニア」を「開発」の視点から取り上げました。

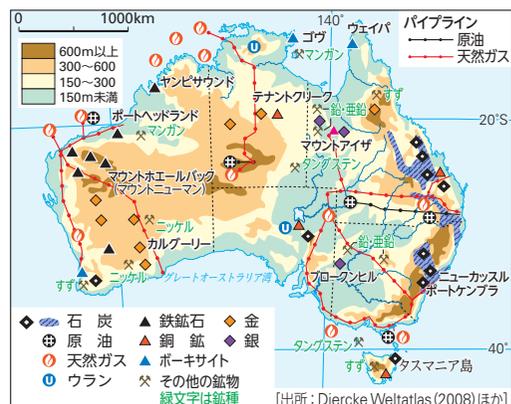


↑1 ワイン用のぶどう栽培 (オーストラリア・ニューサウスウェールズ州ハンターヴァレー, 2012年6月撮影) ワインの生産地として、オーストラリアの食文化を支えてきた。

↑2 テーマパークとして復元された鉱山集落 (オーストラリア・ヴィクトリア州バララット, 2017年4月撮影) 1851年に金鉱が発見され、ゴールドラッシュで大量の移民が集まってきた当時の、イギリスなどに由来する生活文化が再現されている。



↑3 オーストラリアとニュージーランドの農牧業



↑4 オーストラリアの鉱業

1 植民による開発と生活文化

イントロ
どのような歴史的背景のもとに、植民と開発が進められ、生活文化が形成されたか、学んでいこう。

地図帳を見て、オーストラリアの鉄道交通網と鉱工業の関係を考えてみよう。

植民による開発
「ラテンアメリカ」と「オセアニア」では、植民による農業や鉱業の開発について、歴史的な経緯とともに詳しく記述しました。

オーストラリアの農業開発
オーストラリアへの植民と移民の歴史は、イギリスの流刑地として始まった。開発は、温暖湿潤な南部の海岸平野から内陸部の半乾燥地域へと進み、植民地での生活に必要な食料の自給が進められた。現在は、小麦やぶどう(写真1)は、南東部と南西部の年降水量400mm前後の地域で栽培されている(図3)。都市周辺では酪農が盛んで、日本向けの牛肉を生産するフィードロット①も、穀物生産地域と直結して立地している。乾燥地域では、牛や羊などの牧畜が大規模に行われている。

オーストラリアの鉱業開発
19世紀に入ると、内陸の乾燥地域を中心に豊富な鉱物資源の埋蔵が確認された(図4)。すると、ゴールドラッシュでヨーロッパから多くの移民が鉱業労働者として流入し、新しい技術や文化がもたらされた(写真2)。そして、露天掘りなどの掘削技術が進歩して開発が本格化すると、人口の増加とともに暮らしを支える農業や工業も発達し、生活水準が向上した。鉱物資源の輸送網も整備され、現在は大型トラックと鉄道で北部や東部の積出港に運ばれ、中国や日本などに輸出されている。

豆知識 ニュージーランドの国鳥・キーウィ ニュージーランド特産のキウィフルーツの名前のもととなったキーウィ。羽が退化して飛ぶことができない、ニュージーランドの固有種である。

「ジオトピ」 「オーギービーフ」の好みも変わる

オーギービーフの最大市場は日本。網の目に脂身の入ったやわらかい霜降り肉、という消費者ニーズにこたえるために、牧草で飼育するグラス・フェッド牛だけではなく、大量の穀物を集中的に与えて肥育するグレイン・フェッド牛が生産量の約半分を占めている。そのため、輸出用のオーギービーフを生産するフィードロットは、穀物生産地域やその周辺に立地し、肉牛肥育地域はクィンズランド州の南東部からニューサウスウェールズ州に形成されている。近年は、健康志向の高まりから、低脂肪のグラス・フェッド牛も再評価されている。



↑5 グレイン・フェッド牛 (オーストラリア, 2010年頃撮影) 飼料はルガムや小麦、大麦からつくられる。

「ジオトピ」
本文のテーマと関連する地理的なトピックを紹介するコラムです。



↑6 ニュージーランドでの羊の飼育 (南島・ワナカ近郊, 2016年3月撮影) 羊肉の最大輸出先はアメリカだが、近年、中国での需要の増加で、羊の種類も肉用種や毛肉兼用種が多くなっている。



↑7 マオリの伝統的な踊り (ニュージーランド・北島・タウランガ, 2019年2月撮影) ラグビーのニュージーランド代表のパフォーマンスにもなっている。

ニュージーランドの植民と開発
ニュージーランドの植民と開発は、先住民の生活を維持しながら、牧畜業の発展による生活文化の発展を取り上げる一方で、少数民族による伝統的な生活文化にも配慮しています。

少数民族の文化
開発による生活文化の発展を取り上げる一方で、少数民族による伝統的な生活文化にも配慮しています。

① ワイトンギ条約
ニュージーランドの主権をイギリスに譲るかわりに、マオリの土地所有権と国民としての権利を認めることを定めている。

チーズなどの乳製品の輸出が可能になると、酪農が発達した。しかし、羊毛生産や酪農が発展すると、森林の伐採によって先住民のマオリ(写真7)との間に土地の所有をめぐる対立が生まれた。1840年にマオリによる土地の所有を認める**ワイトンギ条約**①が結ばれた後も対立は解消されていないが、広大な農地を基盤とする農牧業が確立した。現在は、北半球の端境期に農産物をEUやアジアなどに出荷できる利点を活かし、野菜や果物の生産も多い。

島嶼国のプランテーション
太平洋の島嶼国では、先進国の市場や加工業と結びついたプランテーションが盛んで、トンガではかぼちゃが、フィジーではさとうきびが栽培されている(写真8)。さとうきびの栽培には多くの労働力が必要で、インド系の多くの人々が季節労働者として移り住んだ。現在でもインド系住民がさとうきび栽培の担い手になっていて、フィジー系の住民との間に、宗教や食生活など生活文化の違いもみられる。



↑8 さとうきび輸送列車 (フィジー, 2014年8月撮影) さとうきびの収穫時期にあたる5月から11月に運行される。

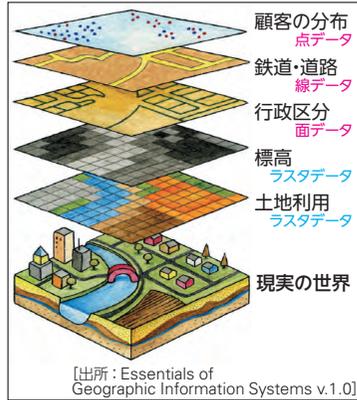
まとめと探究
A 農牧業と気候との関係について、降水量に着目してまとめてみよう。
B 羊の飼育が広く行われるようになった文化的背景について、考えてみよう。

情報源 オセアニアの島嶼国の情報を知るには? 国際機関「太平洋諸島センター」のウェブサイトでは、オセアニアの島嶼国の貿易・観光情報を国別に紹介している。

ポイント③ 思考力・判断力・ 表現力を養う題材

ジャンル	活魚料理
営業時間	11:00 ~ 15:00
定休日	日曜日
評価	★★★

↑1 地理空間情報の例



↑3 地理空間情報の記録されるレイヤの仕組み

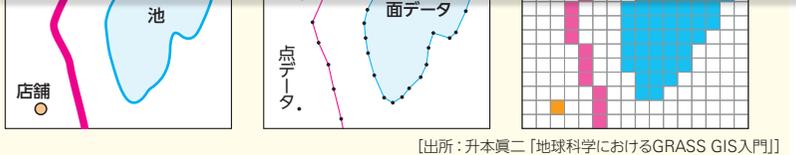
イントロ
GISで使われる地理空間情報は、どのような情報から構成され、社会のなかでどのように活用されているのだろうか。

表1の地理空間情報を、位置情報と属性情報に分類してみよう。

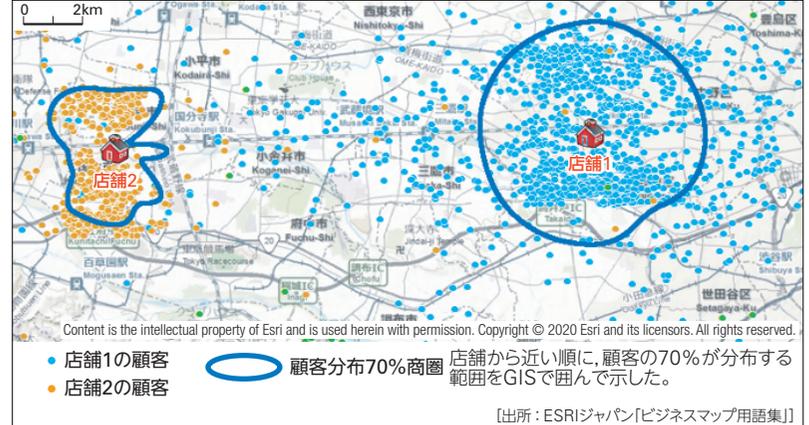
宮崎県「ひなたGIS」にアクセスし、点・線・面のデータを地図上に重ねてみよう。

- 二次元コード (ウェブGISへのリンク)**
- Google Earth
 - 地理院地図
 - ひなたGIS
 - RESAS
 - ハザードマップ
- など、代表的なものを網羅。

新指導要領における地理学習の基盤となる 地図・GISの概念を基礎から丁寧に学びます。



↑2 位置情報の2つの型



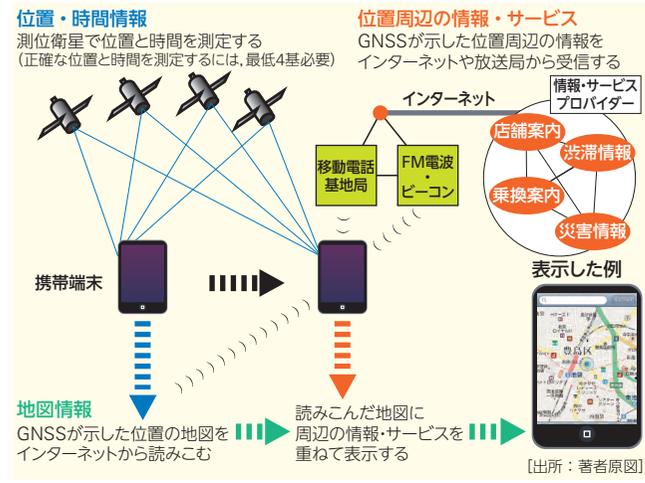
↑4 GISで作成した地図の例 (店舗ごとの顧客分布)

3 地図・GISのしくみと役割

地理情報とは
地理空間情報は、位置情報(人や物の位置)と、属性情報(名称や地名、説明、統計数値など)から構成される(表1)。位置情報は、経度と緯度のほか、住所や郵便番号などであらわされ、点や線、面などのベクタ型のデータで記録される場合と、セルと呼ばれるマス目が格子状に並んだラスター型のデータで記録される場合がある(図2)。属性情報は、人や物の状態をあらわす情報をいう。例えば、あるレストランの地理空間情報は、レストランの経度や緯度などの位置情報と、レストランの名前やメニューなどの属性情報から構成される。

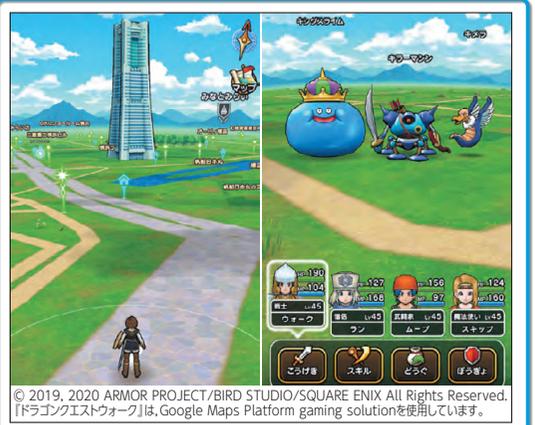
GISのしくみ
GIS(地理情報システム)は、地理空間情報を記録し、表示、分析、管理するために使われるシステムで、地理空間情報の記録には、その種類ごとに区別して記録するレイヤ(階層)が使われている。例えば、顧客の分布は点データ、鉄道や道路は線データ、建物や行政区分の形は面データとして、別々のレイヤに記録する(図3)。そうすれば、目的ごとに、顧客の分布だけを表示したり、顧客と道路や、さらに建物のレイヤを重ねて表示することもできるようになる(図4)。

豆知識 地下街でGNSSは使えるの? 携帯電話の基地局や、ビーコンと呼ばれる無線による位置特定技術を利用した、地下街でも使える位置情報案内サービスも普及しはじめています。



↑5 GNSS(全球測位衛星システム)のしくみ
地域情報を、その地域を訪れた人向けに発信するためにスマホの位置情報を利用するなど、GNSSを活用する幅がひろがっている。

↑7 GNSSの活用例
登山者がGNSS受信機で得た移動経路の記録を集めたビッグデータを使って、地理院地図に描かれている登山道を修正している。



ゲーム・アニメ・映画を事例として掲載

- ゲーム「ドラゴンクエストウォーク」
- アニメ「宇宙よりも遠い場所」
- 映画「シティーハンター」など

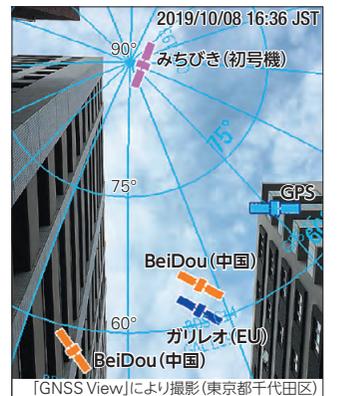


GNSSのしくみと役割

GNSS(全球測位衛星システム)は、人工衛星からの電波を使って地球上の現在地を特定するシステムで、アメリカが運用するGPSをはじめ、中国のBeiDou(北斗)、EUのガリレオ、ロシアのGLONASS、インドのNAVICなどがある。GNSSで現在地を特定するには、最低で4機の人工衛星からの電波を受信する必要がある(図5)。しかし、人工衛星の電波が届きにくいビル陰などでは精度が落ちるため、複数のGNSS衛星を併用したり、日本では準天頂衛星「みちびき」で補完したりしている(図8)。

地理情報の社会での活用
GISとGNSSを使うことで、誰もがいつでもどこでも地理空間情報を利用できるようになり、どこで何がおきているのか、即座に適確に判断して行動できる、G空間社会が実現できる。例えば、被災地で通行可能な道路の情報を収集したり、農地でトラクターの自動運転をしたりするときにも地理空間情報を活用できる。身近なところでは、スマートフォン向けのゲームにも位置情報が利用されている(図6)。スマートフォンの普及によって位置情報の利用が容易になったため、位置情報を含むビッグデータの蓄積が進んでいて、それをどう活用するかが、企業経営や行政運営の効率化と発展につながっている。地理院地図のデータ更新にもビッグデータが活用されている(図7)。

情報源 ベクトル版地理院地図 地理院地図VECTORでは、地理院地図に描かれている建物や道路などがレイヤに分割記録されていて、必要なものだけ表示することができる。



↑8 地上から見たGNSS衛星の位置(東京都千代田区、2019年10月撮影、AR機能により表示)準天頂衛星「みちびき」からの電波は、常に天頂から届くため、ほかのGNSS衛星がビルに遮られている時にも、位置情報を取得しやすくなる。

まとめと探究

A 点データ、線データ、面データにはそれぞれどのようなものがあるか調べてみよう。

B 地理空間情報が活用されている身近な事例をさがしてみよう。

地理院地図・地形図の読図③ 扇状地

デジタルの地理院地図と、アナログの地形図の両方を活用できる力を身につけます。



地理院地図・地形図
 代表的な地形がみられる地形図を、地理院地図に対応した新しい図式で掲載。二次元コードからは、同じ場所の地理院地図をスマホなどで表示できます。

↑1 扇状地(電子地形図25000「石和」, 2018年11月調製)
 集落を結んで走る曲がりくねった県道には旧道が多く、町の成り立ちを調べる手がかりになる。

●地理院地図 VECTOR で、扇頂が上になるように地図を回転させてみよう。

Question

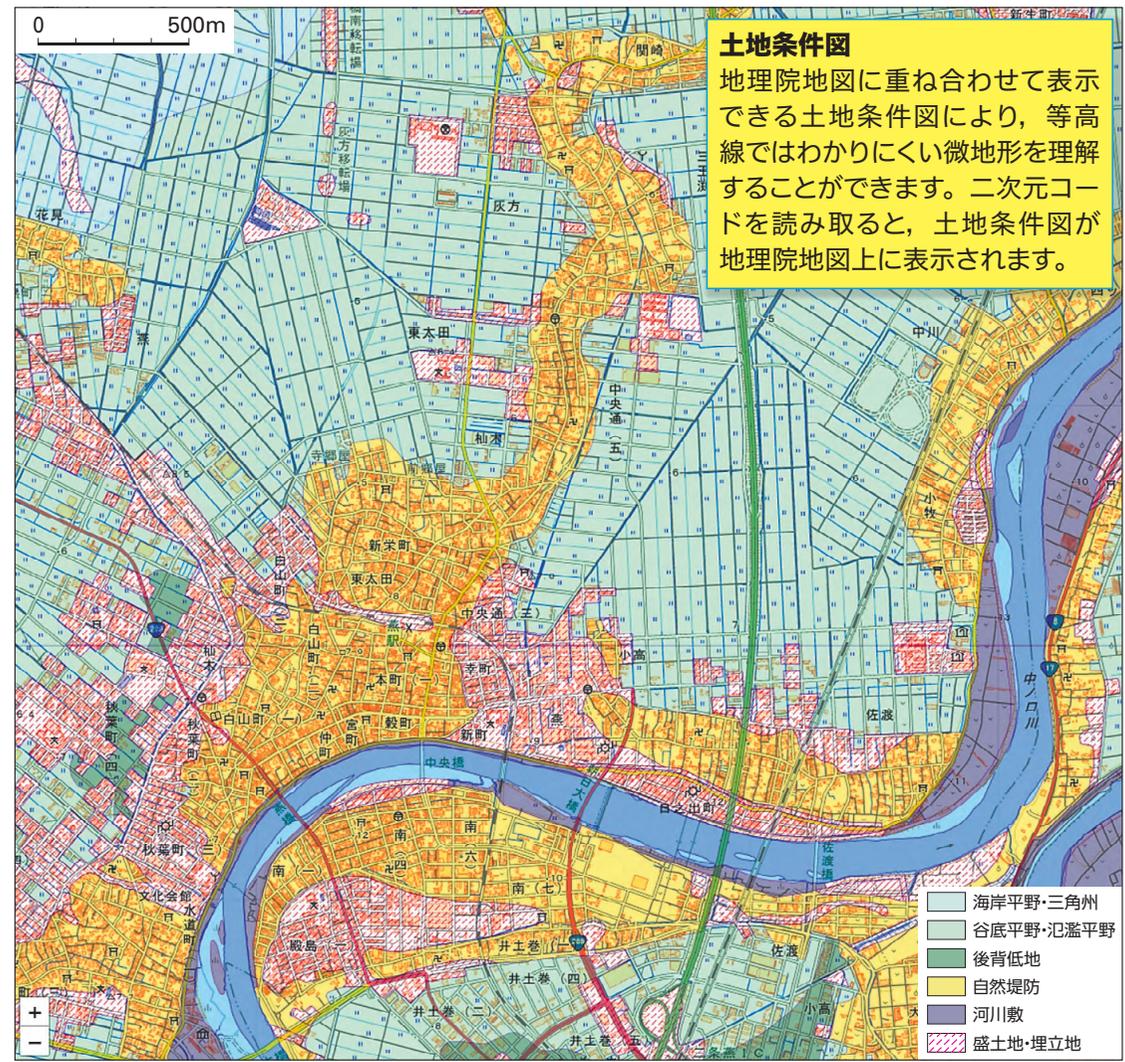
- 扇状地の範囲はどこか。
- 扇央はどのような土地利用になっているか。
- 扇端はどこで、何があるか。

図の南東部でV字谷をつくった京戸川が平地に出るところに扇状地ができています。京戸川は今は西寄りに流れているが、かつては流路が洪水のたびに変わり、それが扇状地をつくった。扇央には中央自動車道(緑色)が通り、水が乏しいため果樹園に利用されている。勝沼町藤井や一宮町千米寺、一宮町石では湧水が豊富なため、集落が带状に広がり、県道(黄色)がそれらを結んでいる。



↑2 扇状地(山梨県笛吹市・甲州市, 2015年5月撮影)

地理院地図・地形図の読図④ 自然堤防



土地条件図
 地理院地図に重ね合わせて表示できる土地条件図により、等高線ではわかりにくい微地形を理解することができます。二次元コードを読み取ると、土地条件図が地理院地図上に表示されます。

- 海岸平野・三角洲
- 谷底平野・氾濫平野
- 後背低地
- 自然堤防
- 河川敷
- 盛土地・埋立地

↑3 自然堤防(地理院地図[新潟県燕市周辺]に、数値地図25000「土地条件」を重ねて表示) 地形図の等高線だけではわかりにくい自然堤防のわずかな高低も、土地条件図を使えばよくわかる。

●地理院地図で、土地条件図を地形図と重ねて表示してみよう。

Question

- 自然堤防は何色で示されているか。
- 後背湿地はどのような土地利用になっているか。
- 図の範囲で河川の氾濫で浸水しやすい場所はどこか。

図の黄色は自然堤防を示している。自然堤防は増水時に土砂が河川の周囲に堆積してできた微高地で、周囲よりも高くなっているため、洪水時に浸水しにくいことから、それに沿って集落が長く続いている。緑色は、等高線がほとんどみられない平坦な後背湿地をあらわしている。氾濫時に水が溜まる後背湿地が、水田として利用されている。



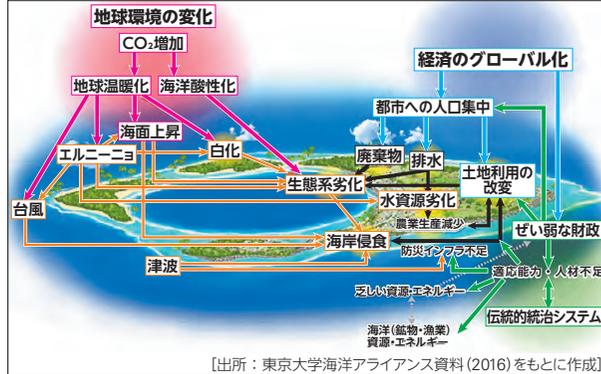
↑4 自然堤防(新潟県燕市, 2014年6月撮影)

SDGs（持続可能な開発目標）と関連する課題を通して、思考力・判断力を身につけます。

↑1 氷河の後退（アメリカ・アラスカ州ミュア氷河、左：1941年8月撮影、右：2004年8月撮影）以前の氷河が氷河湖に変わっており、今後も融解が続けば、氷河湖決壊洪水（GLOF, p.113）が起きるおそれがある。



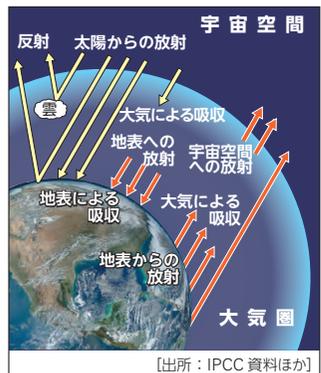
↑2 高潮で水に浸かった集落（ツバル・フナフティ島、2015年4月撮影）サンゴや有孔虫などの堆積で島の面積は増えているが、人口の集中によって低地に住む人が増え、高潮の被害を受けやすくなっている。



↑3 温暖化と経済発展が島嶼国に与える影響 居住できる面積は限られているため、経済発展による過密化と海面上昇が重なると、居住域が減少し居住環境が悪化する。

4 気候変動とその対策

イントロ 地球温暖化のしくみを理解し、海や陸の豊かさを守るための具体的な方法を考えていこう。

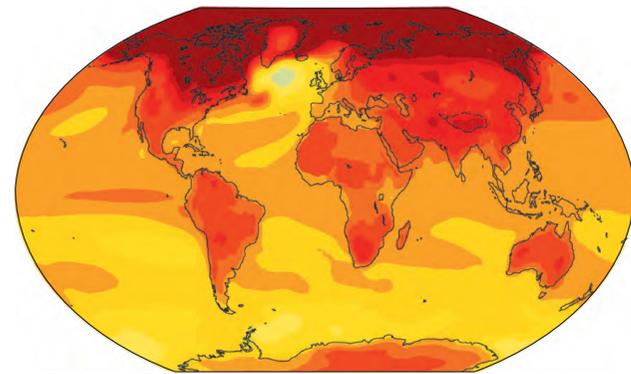


↑4 温室効果のしくみ 温室効果ガスは太陽からの光は通すが、地球からの熱は通しにくい。

温室効果ガスの功罪 石油や石炭など化石燃料が燃焼するときに排出される二酸化炭素(CO₂)やメタン(CH₄)などには、地球から放出される赤外線を吸収して地球の温度を高く保つ働きがあり、温室効果ガスとよばれている(図4)。温室効果ガスそのものは気温を保持するために必要だが、経済活動の発展により、大気中の二酸化炭素濃度は産業革命前の約1.5倍に達している。そのため、地球温暖化を含む気候変動が懸念されている(図6)。

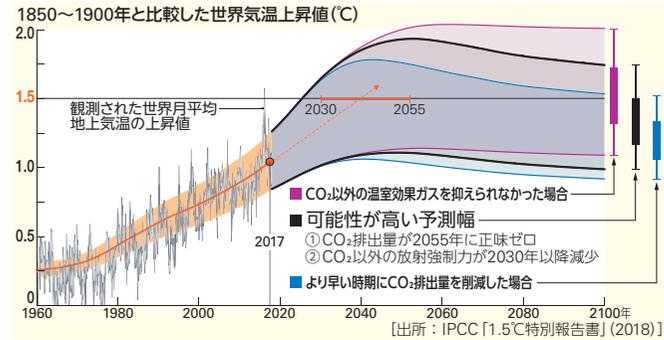
世界の砂漠化 IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告書によれば、2100年までに地球の平均気温は約0.3~4.8℃上昇すると予測されている(図5, 図6)。これが現実となれば、気温の上昇や降水量の変化などにより、私たちの暮らしや農業生産にも大きな影響が出る。また、海洋の酸性化が進んで生態系が影響を受けるおそれもある。氷河や氷床(写真1)が融けると、長期的には海面上昇がおり、ツバルなどサンゴ礁の島では、高潮などによる浸水が増加するおそれもある(写真2, 図3)。

豆知識 牛の「ゲップ」で温暖化？ 牛など反すう動物のゲップに含まれるメタンには二酸化炭素の50倍の温室効果があるが、メタン発生量の約4分の1はそのゲップによるというデータもある。



21世紀末までの気温上昇(2006~2025年平均と2081~2100年平均の比較、RCP4.5シナリオ、冬、最高気温) [出所: Imtiaz Rangwala(2013)]

↑5 21世紀末の気温



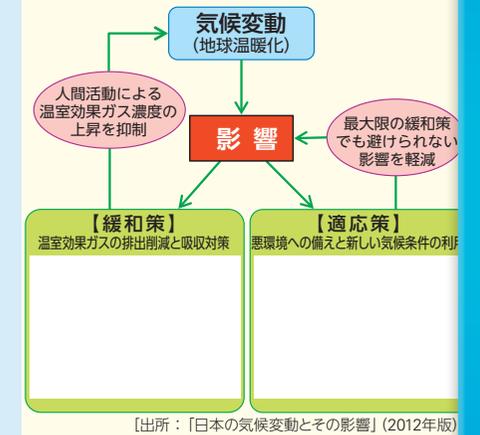
↑6 気温変化の予測

国際社会の取り組み 気候変動への対策をとることは、人類にとっての緊急の課題である。1992年には気候変動に関する国際連合枠組条約が結ばれ、各国が協力して温室効果ガスの排出量を減らすことを決めた。また、1997年には京都議定書が、2015年にはパリ協定が採択され、「世界の平均気温上昇を産業革命前に比べて2℃以下、1.5℃に抑える努力をする」という目標が定められた。目標を実現するための具体的な対策については、アメリカが離脱するなど各国の利害調整が難航した。2018年にはパリ協定の運用のための各国共通の指針となるルールブックが採択された。

緩和策と適応策 気候変動への備えには、緩和策と適応策がある(図7)。緩和策としては、温室効果ガス排出量の削減目標①を各国が定めている。目標の達成には、再生可能エネルギーの割合を増やすだけでなく、省資源・省エネルギーにも取り組む必要がある。一方、緩和策をとっても避けることが難しい影響に対しては、適応策を取る必要がある。防災や緑化の推進などにより、気象の変化や海面上昇による被害を最小限に抑え、人間生活、産業、文化を新たな気候条件に適応させる対策が求められている。

情報源 IPCCの報告書を読むには？ オリジナルの報告書は英語で書かれているが、環境省のウェブサイトには、日本語に翻訳された概要が掲載されている。

SDGs チャレンジ 気候変動への緩和策と適応策



↑7 緩和策と適応策 気候変動への対策としては、緩和策と適応策があるが、自分たちの暮らしの中で、気候変動による影響を緩和し、気候変動に適応するためにはどうすればよいだろうか。図7の空欄に、暮らしのなかでの緩和策と適応策の具体案を考えて、書き込んでみよう。

「SDGチャレンジ」 SDGsに関連した地球的課題について、相互のつながりを考えさせるコラムです。

QRコード 2100年までの気温上昇予測を動画でみてみよう。

緩和策と適応策 地球的課題の持続可能な解決方法について、緩和策と適応策に分けて考えさせることを促します。

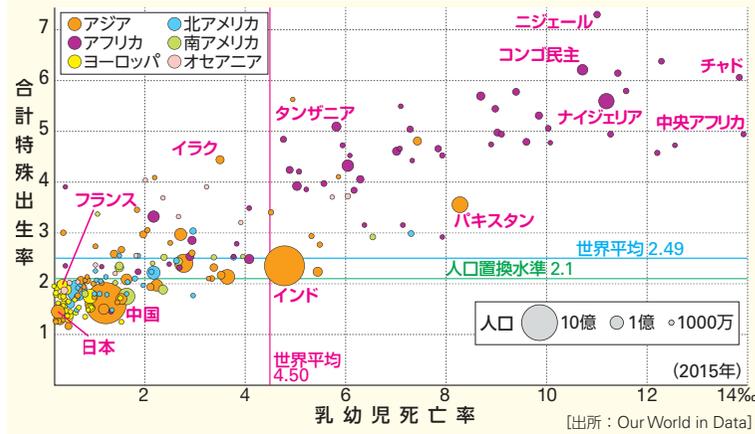
まとめと探究 A 気候変動の影響と考えられるものに、どのようなものがあるか調べてみよう。 B なぜアメリカはパリ協定から離脱したのだろうか、考えてみよう。

ポイント③ 思考力・判断力・表現力を養う題材

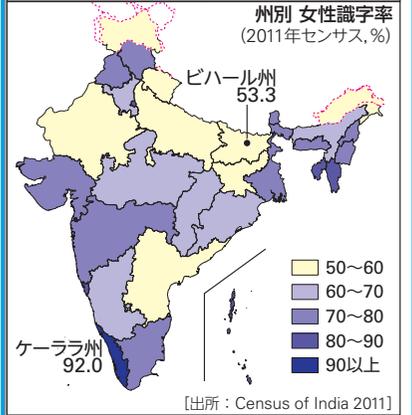
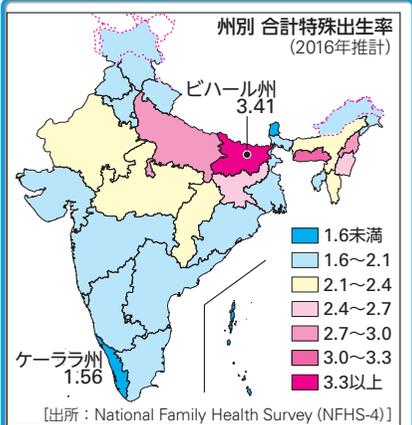
思考・判断の材料となる主題図・グラフをもとに、課題の現状に鋭く迫ります。



↑1 インドの家族（ムンバイ，2015年10月撮影）国民の5割以上が第一次産業に従事している、所得格差が課題になっている。



↑2 合計特殊出生率と乳幼児死亡率

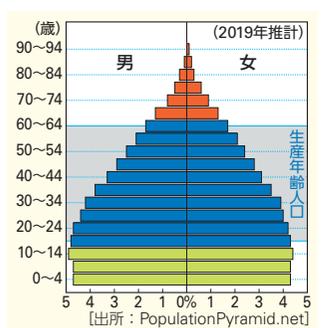


↑3 インドの州別に見た合計特殊出生率と女性識字率

主題図・統計の比較
複数の主題図と統計の比較から、課題の背景を考えさせます。

2 世界各地の人口問題

イントロ
人口が増え続ける国や地域と、人口が停滞している地域では、どのような問題がおきているだろうか。



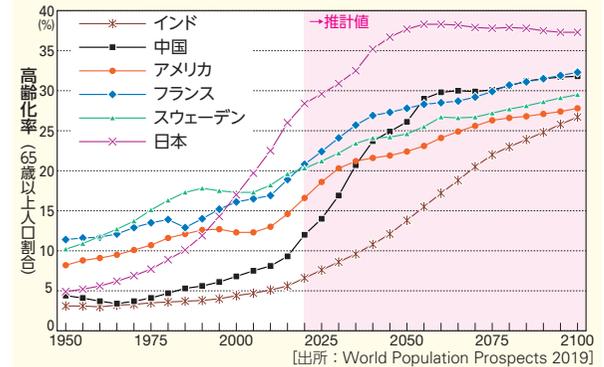
↑4 インドの人口ピラミッド

① 家族計画
豊かな暮らしを送るために、家庭状況を考えながら、子供の数や出産の時期を計画すること。

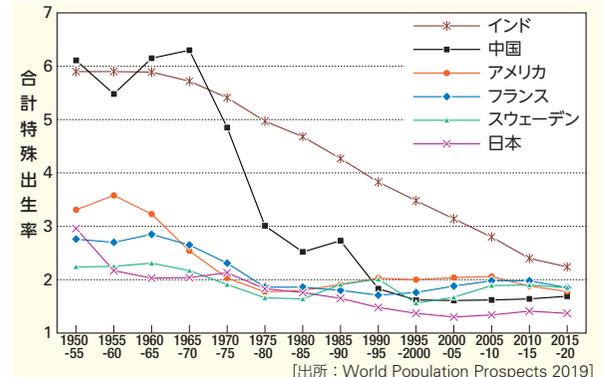
増え続ける人口とその課題
インドの人口は中国に次いで増加している。2027年頃には中国をこえ、2059年頃にピークに達すると予測されている。インドでは、伝統的に農業を支える働き手として、一人でも多くの子供が必要とされてきたため、国全体として多産の状態が続いてきた（写真1）。

解決に向けた対策～インド
戦後、インドでは医療衛生水準の向上によって乳幼児死亡率が下がり、人口増加が進んだ。1951年には、世界で初めて**家族計画**①を軸とした人口抑制策をとった。インドの各州は、政府の目標値をもとに、貧困層や子供が2人以上いる夫婦を中心に不妊手術を行うなどして人口抑制を図ったが、国民の反対が強く退陣に追い込まれた政権もあった。1980年代以降は、福祉政策と組み合わせた家族計画を進め、合計特殊出生率は世界平均を下回っている（図2）。都市部では家族計画が定着しているが、貧困や文化的背景から女性の識字率が低い北部の州では、合計特殊出生率は今も高い水準にある（図3）。

豆知識 日本の人口が1億人を下回る？ 日本の人口は2053年には9924万人になり、1億人を下回ると予想されている。さらに、2115年には5056万人になるといわれている。



↑5 おもな国の高齢化率の推移と見し

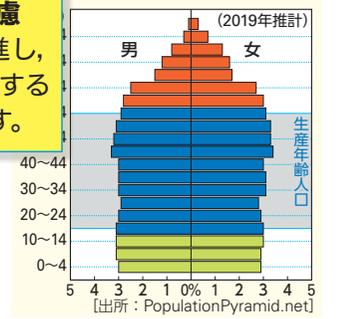


↑6 おもな国の合計特殊出生率の国別推移

少子化・高齢化とその課題
平均寿命が延びた高所得国では、高齢化が進んでいる（図5）。一方、1970年代から合計特殊出生率が急速に下降して少子化も進んだ（図6）。子供の養育費と教育費の増大、晩婚化と晩産化、避妊の普及などが原因といわれている。日本は高所得国で最も少子高齢化が進んでいて、高齢化率は27.7%、合計特殊出生率は1.43にまで落ち込んだ（2017年）。少子化は経済規模の縮小や労働力不足、地域社会の担

多様な生き方への配慮
男女共同参画を推進し、多様な選択を可能にする教育に配慮しています。

① リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
「性と生殖に関する健康と権利」と訳される。妊娠や出産の調節について、カップルや個人、とくに女性が自分の身体のことを自分で決められる基本的な権利のこと。



↑8 フランスの人口ピラミッド

解決に向けた対策～フランス
フランス（写真7）や北欧諸国では、1990年代から合計特殊出生率が回復してきている。フランスは1990年代以降、カップルのあり方や、出産・子育て期の就労、保育支援について幅広い選択ができる環境整備を進め、支援を強化したことで、出生率が回復したといわれている（図8）。1994年にエジプトのカイロで開催された**国際人口開発会議**では、人口問題の解決のためには、**リプロダクティブ・ヘルス/ライツ**①を尊重することや、国や企業、社会がそれを支援すべきという指針が示されたが、フランスの政策はそれに沿ったものであった。

情報源 世界人口白書 国連人口基金では、「世界人口白書」を毎年刊行している。東京事務所のウェブサイトから日本語版のPDFをダウンロードすることができる。

フランスの少子化対策



↑7 フランスの保育園（リヨン，2019年3月撮影）

カトリックの信者が多いフランスは、カップルが結婚する手続きが日本と比べて複雑であるが、結婚しなくても、異性または同性の同居するカップルが税制上の優遇などを得られるパクス（連帯市民協約）というしくみがある。法的な婚姻関係がなくてもそれに準じた保護があり、出産、子育て、就労、教育に関する支援を受けることができるため、少子化の軽減につながっている。

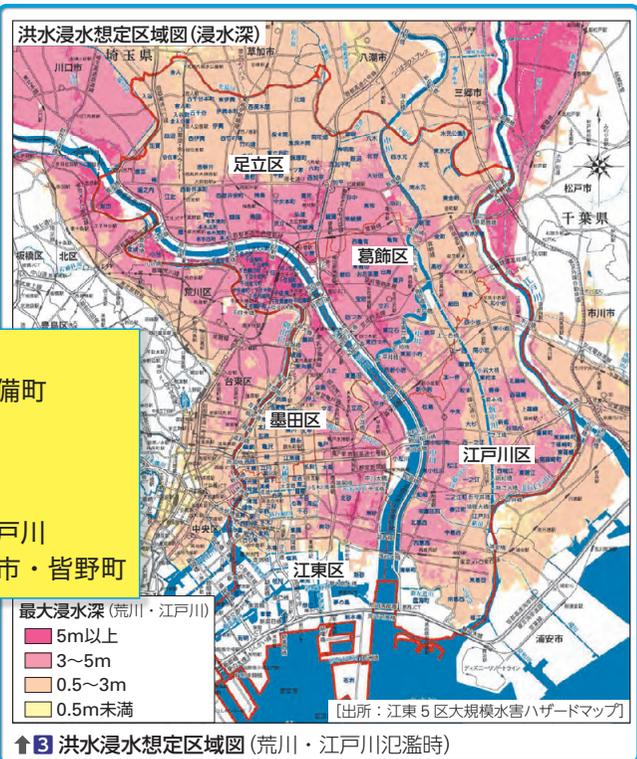
「日本の自然環境と防災」では、地域により異なる災害リスクに対応した事例を取り上げました。

↑1 カスリーン台風による浸水被害（東京都江戸川区平井，1947年9月撮影）利根川の堤防が決壊して濁流が押し寄せた。



ハザードマップの事例

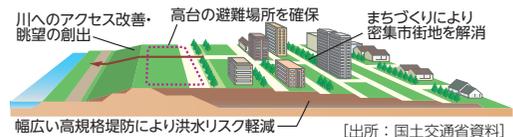
- 洪水：岡山倉敷市真備町
- 噴火：富士山
- 地震：埼玉県朝霞市
- 津波：高知県須崎市
- 都市型災害：荒川・江戸川
- 土砂災害：埼玉県秩父市・皆野町



最大浸水深（荒川・江戸川）
 5m以上
 3~5m
 0.5~3m
 0.5m未満
 【出所：江東5区大規模水害ハザードマップ】

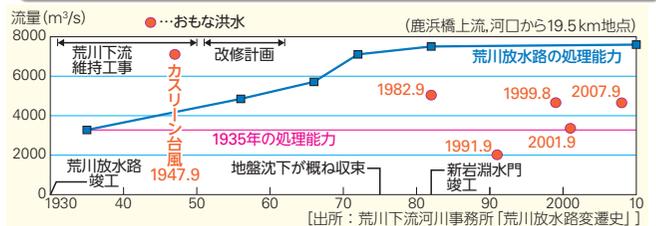
↑3 洪水浸水想定区域図（荒川・江戸川氾濫時）

↑2 首都圏外郭放水路（埼玉県春日部市，2019年10月撮影）約65万m³の水をためることができるが，2019年10月には満杯になった。



↑4 高規格堤防（スーパー堤防）

従来の堤防より幅が広く傾斜もゆるやかなため，水があふれても急な流れにならず，決壊の危険性も少なくなる。ただ，建設費がかさむうえ，立ち退きの必要もある。



↑5 荒川放水路による洪水防止効果 改修によってカスリーン台風級の災害は防げるようになっている。

6 都市型災害と防災

イントロ
 都市特有の災害にはどのようなものがあり，どのような対策が行われてきたのだろうか。また，通勤・通学中に被災した場合は，どのような対策をとればよいだろうか。

都市河川と治水 日本の三大都市圏は，いずれも河川沿いの平野部に発達している。東京（江戸）では，江戸時代以前から河川の流路変更や放水路の整備など，絶えず治水が続けられてきた。それでも水害はなくなる（写真1）。また，高度経済成長期には工業用に大量の地下水などを汲み上げたため地盤沈下で，東京東部の荒川・江戸川流域などにゼロメートル地帯^①が広がった。

図3は荒川と江戸川が氾濫したときの洪水浸水想定区域図である。海面よりも標高の低いところが多いため，水害が発生すると浸水時間も長くなる。そのため，洪水が起きないように，ふだんからポンプで排水しているほか，既存の堤防を強化したり，地下放水路（写真2）により処理できる流量を増やしたり，高規格堤防（スーパー堤防）（図4）を整備したりして，洪水に備えている（図5）。

豆知識 荒川放水路 1924年（大正13年）に完成した人工の水路。放水路の完成により，明治時代には10回以上発生していた床上浸水をとまぬ洪水は少なくなった。

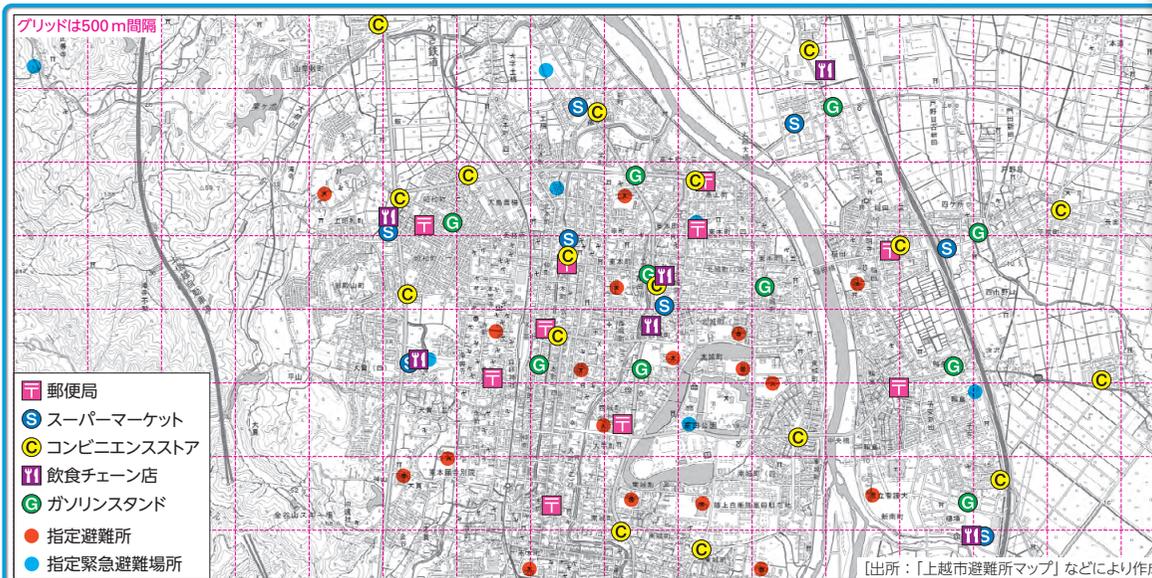
① ゼロメートル地帯
 標高が満潮時の平均海面よりも低い地域をいう。東京湾，伊勢湾，大阪湾のゼロメートル地帯を合計すると面積は580km²，人口は400万をこえる。



↑6 東日本大震災の帰宅困難者（東京都新宿区四谷，2011年3月11日撮影）首都圏を中心に10万人以上が家に帰れなくなった。



↑7 帰宅支援ステーションになっているコンビニエンスストア（2012年2月撮影）災害時には自治体との協力で，①飲用水の提供，②トイレの使用，③通行可能な道路に関する情報の提供，などを行う。



↑8 自分で作る帰宅支援マップ 持ち運びのできる紙地図に500m間隔でグリッドを引き，自分の通学圏にある避難施設，医療機関，学校，コンビニエンスストアなどの施設を調べ，地図上に印をつけておくだけでも役に立つ。

帰宅困難者への対策 2011年の東日本大震災では，鉄道が長時間にわたり不通になったため，都心部にいた通勤・通学者が帰宅できなくなり，長距離を歩いて帰るなど多くの帰宅困難者が出た（写真6）。そのため，災害時は帰宅を急がず，数日間は会社や学校で寝泊まりできるように対策がとられるようになった。しかし，休日に発生した場合や，出張などでいつもと違うところにいる場合は，会社や学校が利用できなくなる。そのため，企業や自治体などは，帰宅困難者の一時滞在施設を整備したり，コンビニエンスストアなどを災害時帰宅支援ステーションとして利用できるようにした

りする取り組みを進めている（写真7）。また，従来は公共交通機関は可能な限り運行を続けるというのが前提であったが，無理に出勤することにより帰宅困難者が増えるという指摘もあり，台風などが近づくと，事前に減便・運休を発表し，市街地に人を集めない対策も行われるようになった。

また，従来は公共交通機関は可能な限り運行を続けるというのが前提であったが，無理に出勤することにより帰宅困難者が増えるという指摘もあり，台風などが近づくと，事前に減便・運休を発表し，市街地に人を集めない対策も行われるようになった。

情報源 医療機関，避難施設などのGISデータを入力するには？ 国土交通省「国土数値情報」のウェブサイト上には，避難施設，医療機関など防災に役立つGISデータが掲載されている。

自分で作る帰宅支援マップ
 紙地図でもGISでも取り組むことができる地図作業の例として，帰宅支援マップ作りを紹介しています。

まとめと探究

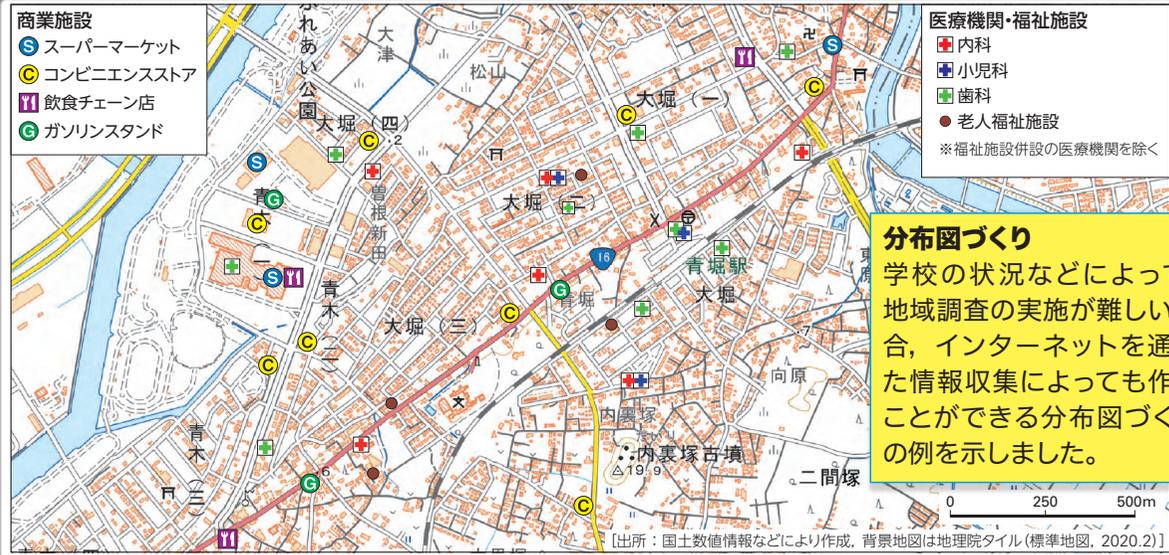
- A 学校や自宅に周囲で，どのような場所が避難所になっているか，確認してみよう。
- B 通学途中で大きな地震が発生した場合を想定し，どのような行動をとればよいか，考えてみよう。

GISでの主題図作りや現地調査をもとに、地域調査の成果を街づくりにつなげる表現力を養います。



↑1 青堀地区の住宅地 (2020年3月撮影)
京葉工業地域への通勤者向けにアパートが多く建てられ、駐車スペースも広く取られていた。

↑2 青堀地区のショッピングセンター (2020年3月撮影)
広い駐車場をもつロードサイド型店舗が多く展開する一方、国道16号沿いの個人商店の多くはシャッターを閉じていた。



↑3 青堀駅周辺の商業施設と医療機関・福祉施設の分布
地理院地図で過去の空中写真や土地条件図を表示し、青堀駅の北側を中心に土地利用の変化をみてみよう。

4 地域調査③ 他地域との比較～まとめ

イントロ
地域の活性化のためには、どのように地域資源を活かしていけばよいだろうか、地域調査の結果をもとに具体策を考えていこう。

金谷地区	高齢化率が高い 人口密度が低い 伝統産業が衰退 漁村的な土地利用 観光客向けの集客施設 医療機関・福祉施設が少ない 旧道沿いに商店街 ...
青堀地区	高齢化率が低い 人口密度が高い 工業地域の通勤圏 都市的な土地利用 ロードサイド型店舗 医療機関・福祉施設が多い 商店街が形成されていない ...

↑4 金谷地区と青堀地区の比較

2つの地域の比較
同じ富津市内でも特徴の異なる金谷地区での現地調査の結果と、北部の青堀地区のようすを比較する。事前調査の結果では、青堀駅の周辺は高齢化率が比較的低く、人口密度が高い地域になっていたが、実際に調査してみると、青堀駅の北側には、おもに東京湾臨海部の工業地域への通勤者向けの住宅(写真1)や、大規模なショッピングセンター(写真2)が、区画整理により形成されていた。旧道沿いに空き店舗が目立つ金谷地区とは対照的に、都市的な土地利用が特徴的であった。

しかし、区画整理された街のなかには従来型の商店街は形成されていない。ロードサイド型店舗が集まる地区以外にも、コンビニエンスストアが均等に分布していた(図3)。医療機関・福祉施設は金谷地区に比べて多く分布しているが、日常生活にも自動車がなくて不便なことは、両方の地区に共通していた(表4)。

豆知識 古代の富津 鎌倉時代以前は、相模から上総に行くには海を渡って富津あたりに上陸していた。青堀地区はその玄関口で、今も大きな古墳が多く残っている。



↑5 地域資源を活かしたピザレストラン (2020年2月撮影)
房州石で窯をつくり、海産物をふんだんに使ったピザを焼いている。地域資源の活用已成功している。



↑6 旅館跡を再生した観光案内・交流スペース (2020年2月撮影)
入浴・宿泊施設も併設され、多目的に使用できる。



↑7 金谷地区のまちづくりプランをまとめた地図
地区を四つのゾーンに分け、地域資源を活かしたまちづくりプランを作成した。

まちづくりプランの提案

- 1 房州石散策ゾーン**
既存の房州石の石塀を活かして、房州石のモニュメントをさらに増やし、石の町を印象付け、おしゃれな雑貨屋を誘致する。
- 2 鋸山グルメゾーン**
鋸山に登る人々をターゲットとした飲食店・カフェを空き店舗に誘致し、房州石と海産物を活かしたメニューを提供する。
- 3 ロードサイド&シーサイドゾーン**
フェリーターミナルを核に、国道の「道の駅」としての機能も加え住民にとって利便性の高いロードサイド型店舗も誘致する。
- 4 浜金谷ふれあいゾーン**
コミュニティセンターや地元向けのスーパー、衣料品店を軸に、お年寄りの憩いの場所を整備し、福祉サービスも充実させる。

実現に向けた課題

① 空き店舗は本当に空き店舗?
既に住民の方の生活空間になっている場合や、台風による被災で使用が難しい建物があった。

まちづくりプランの提案
地域調査の結果を踏まえて、実際に町に対して活性化の方策を提案することを目標に、まちづくりプランの具体例を示しました。

調査結果の整理・考察
同じ市内の対照的な地区を比較し、市内の課題を明らかにした。金谷地区の旧道沿いは、観光客の来訪がみられる一方で、高齢化とともに商店や医療施設が減少し、観光と住民生活を両立させた地域の活性化が課題であった。

金谷地区は、フェリーターミナルと鋸山という大型集客施設が南北端にあるので、地域資源を効果的にアピールすれば、大型集客施設を訪れる客を地区内に誘導することができる。そのため、金谷地区の地域資源である房州石と海産物を組み合わせた魅力ある店舗(写真5)を増やすことが効果的であると考えた。実際、空き店舗を利用した交流拠点(写真6)やカフェが増え、若者の定住を促進する取り組みも行われている。しかし、移住者を定着させるためには、青堀地区と比べて日常生活の利便性に乏しいのが現状であった。

そこで、現地調査の結果に基づき、金谷地区を活性化させるための方策を話し合い、地域の課題に対応した四つのゾーンを設定したまちづくりプランを、図7のような地図にまとめた。

- ① 調査結果の整理方法**
調査結果の整理方法には、以下のようなものがある。
1. 時間的な推移や、空間的な展開に基づいて、地域の変化を整理する。
 2. 地域の課題や現象を、いくつかの項目に分類して整理する。
 3. 項目ごとに、ほかの地域と比較させながら整理する。
 4. 地域の課題と、その要因との因果関係に基づいて整理する。

まとめと探究

A 自分たちの地域にある地域資源を書き出してみよう。
B 地域資源を、地域の活性化につなげていくにはどうすればよいか、話し合ってみよう。

情報源 全国の地域活性化の事例を調べるには? 総務省の「ICT地域活性化ポータル」というウェブサイトでは、ICTを活用した地域活性化の事例を紹介している。

地理総合 学習者用デジタル教科書

地総 704 準拠

学習者用の端末でご利用いただく生徒用のデジタル教科書です。(1ユーザー1ライセンス)
スムーズなページ遷移、紙面の拡大表示、紙の教科書を使用しているかのような書き込みが可能です。
書き込んだ情報はユーザー個人ごとに保存できます。



※制作中につき、内容や体裁は変更になる場合がございます。

デジタル教科書ビューアの便利な機能

便利な機能 ①

ズーム表示

紙面を拡大表示し、図版や写真の細かいところまで見ることができます。



便利な機能 ②

ペン&マーカー/消しゴム

「色」「太さ」「透明度」の設定は自由に変更可能。

よく使う設定を保存することもできます。

「消しゴム」機能で書き直しもスピーディーに。



便利な機能 ③

ふせん

ふせんにメモをして貼り付けておくことができます。小さくたたむこともできます。



学習者用デジタル教科書 商品概要

●デジタル教科書の基盤システムについて

デジタル教科書の提供・表示ビューアの基盤となるシステムとして「みらいスクールプラットフォーム」(https://www.mirai-school.jp/platform/)を採用しています。

専用のビューアはiPad, Chromebook, Windows PCの各端末に対応。

学校のオンライン環境に合わせて配信・提供方法をお選びいただけます。

●ライセンス体系/動作環境/提供方法/おもな機能について

ライセンス体系	1ユーザー1ライセンス 必要な人数分のライセンスをご購入いただき、学習者用端末でご利用ください。 紙の教科書のご利用期間中はライセンスが有効となります。
利用者端末動作環境	動作保証環境 <ul style="list-style-type: none"> ● iPad OS※ ブラウザ：Safari ● Chrome OS※ ブラウザ：Google Chrome ● Windows 8.1/10 ブラウザ：Microsoft Edge・Google Chrome ※ iPad OS・Chrome OSはクラウド版、学校内サーバー版のみご利用可能。 DVD版ではご利用いただけません
提供方法	<ul style="list-style-type: none"> ▼クラウド版(オンライン配信) 各利用者端末のブラウザから当社指定のクラウドサーバーにアクセスしてご利用ください。各端末へのインストールは不要ですが、ご利用の際にはオンライン環境が必要です。 ▼学校内サーバー版 学校・教育委員会等に設置されているサーバーにインストールし(インストール用DVD-ROMを納品いたします)、各利用者端末から校内設置サーバーにアクセスしてご利用ください。 ▼DVD版(スタンドアロン) DVD-ROMを各利用者端末に直接インストールしてご利用ください。インストール後はオフライン環境でのご利用が可能です。(DVD版はWindowsのみ対応となります)
ビューアのおもな機能	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル紙面の閲覧、拡大表示、ページ送り ● ペン、マーカー、スタンプ、消しゴムを利用した書き込み/削除 ● 編集した紙面データをユーザーごとに保存 ● しおり、ふせん、タイマー(ストップウォッチ)、ポインター ● 外部リンクへのアクセス(紙の教科書の二次元コードに対応)

・紙の教科書をご採用いただいた場合に限り、対応する「学習者用デジタル教科書」のライセンスをご購入いただくことが可能です。
 ・本資料のデジタル教科書の画面イメージ・記載内容は、開発中の情報を含むため、製品版において変更になる場合があります。

体験版をぜひお試しください!
(2021年5月公開予定)

対応ブラウザ Google Chrome, Microsoft Edge, Safari

地理総合ワークブック

地総 704 準拠

B5判・90頁(予定)・1色刷 定価：未定 別冊解答付

教科書に完全準拠し、基礎知識が身につく

授業の予習や復習に、毎時間活用できるワークブックです。

穴埋めによる「内容の整理(Basic)」を左側ページに配置

左ページの下欄「WORDS」に、空欄の選択肢を用意しました。穴埋めにより地理用語を整理させ、基礎知識の定着を図ります。

教科書の内容を簡潔に整理しました毎時間ご活用ください

穴埋め問題は最大20問。ページの下部に選択肢を設けているので、無理なく作業を進めることができます。

38

第4章 地球的課題と国際協力 第3節 人口・食料問題 (1)

教科書のページ：182～185

Basic

1. 人口と人口問題

a. 世界人口の分布と推移

- ・人間が居住している地域：(① **エクメーネ**)
- ・人間が居住していない地域：(② **アネクメーネ**)

b. 地域ごとの差異

- ・アジア・アフリカ → 第二次世界大戦後に急激な人口増加 = (③ **人口爆発**)
- ・ヨーロッパ → 戦後、(④ **少子高齢化**) による人口減少
- ・北アメリカやオセアニア → 多くの(⑤ **移民**) により人口減少が穏やかに

c. 世界の人口問題

- ・人口増加率 = (⑥ **自然増加率**) (出生率 - 死亡率) + (⑦ **社会増加率**) (移入率 - 移出率)

・人口動態

- (⑧ **多産多死**) 型：出生率と死亡率がともに高い
- (⑨ **多産少死**) 型：出生率が高く死亡率が低い → 人口急増
- (⑩ **少産少死**) 型：出生率と死亡率がともに低い

・人口問題は、食料問題・都市問題などさまざまな問題へと波及。

2. 世界各地の人口問題

a. 増え続ける人口とその課題 / b. 解決に向けた対策～インド

- ・インドの人口：現在は第2位、2027年頃には中国をこえ第1位に
- ・インドの人口問題への対策

戦後：医療衛生水準の向上

→ (⑪ **乳幼児死亡率**) の低下による人口増加

1951年：世界で初めて(⑫ **家族計画**) を軸とした人口抑制策を実施

1980年代以降：(⑬ **合計特殊出生率**) は世界平均を下回る

→ 都市部・南部：(⑭ **家族計画**) が定着

北部：女性の(⑮ **識字率**) 低く、(⑯ **合計特殊出生率**) が高い

c. 少子化・高齢化とその課題 / d. 解決に向けた対策～フランス

- ・高所得国で進む高齢化、少子化
- ・日本：高所得国で最も(⑰ **少子高齢化**) が進行
- 深刻な労働力不足、(⑱ **社会保障**) や財政の維持が困難に
- ・フランスや北欧諸国では、1990年代から出生率が回復傾向
- カップルのあり方、出産・子育て期の就労、保育支援に幅広い選択肢
- ・1994年：カイロ(エジプト)で(⑲ **国際人口開発会議**) が開催
- 人口問題解決のための指針提示
- ex. (⑳ **リプロダクティブ・ヘルス/ライツ**)

● 指導のポイント

世界の人口分布を概観して人口増加にともなう問題点を理解する。また、人口問題は食料問題とも密接に関わることを理解させる。

● 指導のポイント

人口増加がどのように進行するかを人口ピラミッドを読みながら理解させる。また、人口ピラミッドから将来の人口問題について考えさせ、どのような解決が可能かを考えさせる。

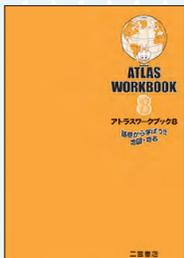
76

WORDS

アネクメーネ 移民 エクメーネ 家族計画 合計特殊出生率 国際人口開発会議
識字率 自然増加率 社会増加率 社会保障 少産少死 少子高齢化 人口爆発
多産少死 多産多死 乳幼児死亡率 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

※紙面は制作中のものです。

地理総合におすすめの副教材



アトラスワークブック 8 基礎から学ぼう!! 地図・地名

B5判・48頁(別冊解答付)
定価：440円(税込)

地図帳を見ながら地名を解答欄に記入することにより、世界旅行感覚で日常生活に必要な地名や地図の基本が楽しく身につくワークブックです。

新課程の開始に合わせて改訂いたします



基本白地図

B5判・56頁(別冊解答付)
定価：本体 440円(税込)

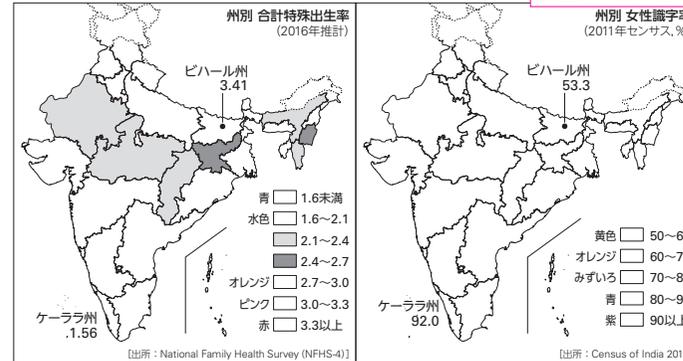
「地理の見方・考え方」を養うことができるテーマや設問を豊富に取り入れた白地図です。授業の補完だけでなく、受験学習にも活用できる作業形式を取り入れました。

新課程の開始に合わせて改訂いたします

Work & Try

課題A 教科書を参考に、以下の問いに答えよう。

- (1) 教科書 p.184 図3「インドの州別に見た合計特殊出生率と女性識字率」を参考にして、下図を凡例にしたがって着色しよう。



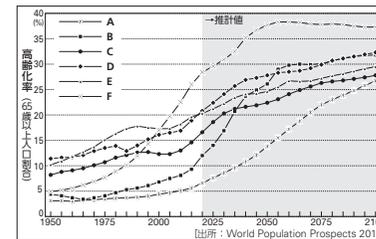
- (2) 上の2枚の図を見て、わかることを以下にまとめてみよう。

女性識字率が比較的高いインド南部では合計特殊出生率が低いが、女性識字率が低い北部では合計特殊出生率が高い傾向にある。

- (3) 「合計特殊出生率」や「女性識字率」はSDGsのどの目標に該当するだろうか。番号を答えよう。

例：1, 3, 4, 5, 10, 17

課題B 下の図はおもな国の高齢化率の推移と見通しを表している。A～Fの国名を右から選び、それぞれ答えよう。



【語群】 アメリカ インド
スウェーデン 中国
日本 フランス

A	インド
B	中国
C	アメリカ
D	フランス
E	スウェーデン
F	日本

シンプルな設問が中心で、予習・復習に無理なく利用できます。

77

※紙面の解答・朱書き解説は、本体には含まれていません。

提出時に確認できるように、学習した日を記入し、スタンプを押す欄を設けました。

学習した日 年 月 日

● 指導のポイント

2枚の地図を読み取り、合計特殊出生率と女性識字率の関係を理解させる。

作業と問題「Work & Try」を右側ページに配置

教科書に掲載している図版(地図、グラフなど)を用いた色塗り作業と、教科書に関連する設問を掲載しています。

さまざまな作業を通して、地理的知識・技能を身につけることができます。

解答・朱書き解説完備

ワークブックをご採用いただきますと、**解答・朱書き解説**が入ったPDFデータをご提供いたします。



データブック オブ・ザ・ワールド 2021年版 Vol. 33

A5判・496頁
定価：本体 770円(税込)

産業・貿易・経済・自然環境など、多くの分野を網羅した「統計要覧」と、全独立国の情報を網羅した「世界各国要覧」の二部構成になっており、国調べなど、国際理解学習にも活用されています。



地理統計要覧 2021年版 Vol. 61

A5判・160頁
定価：440円(税込)

最新データをもとに整理・分類した統計書のロングセラーです。コンパクトな体裁ながら、多くの分野の莫大な情報を掲載しています。検索しやすい分野別構成になっており、変化の激しい世界を、統計で明らかにします。

地理総合 教師用指導書 朱書き編

地総 704 準拠

B5判・240頁(予定)・2色刷

学習のねらい・学習の流れ

見開きで学習する意図や重要な点、授業での時間配分を、明確に示しています。

「イントロ」導入のポイント

学習するテーマについて、生徒の関心を引き出すためのポイントを記述しています。

テーマに沿った授業の流れをバックアップ

1授業時における「学習の流れ」やねらい、評価規準を簡潔に示したうえで、板書例、教科書の記述の解説、指導上の留意点、さらに作業の解答例までを掲載。授業を組み立てる際の基本構成とともに、応用するための情報も示します。

板書例

DVDには、PowerPointスライド形式で簡潔な板書例を収録しています。

2冊あれば 地理総合に 万全の備え

地理総合 教師用指導書 解説編

地総 704 準拠 地総 705 準拠

二宮書店の地理総合教科書に
共通してお使いいただけます。

B5判・ページ数未定

授業準備で、最初に開く指導書

地理総合の各分野について、用語解説や事項解説を丁寧に記述しました。二宮書店の地理総合教科書の両方に出てくる用語を網羅しており、地理総合を指導する際の基礎資料として汎用性の高い構成になっています。地理必修化により初めて地理を担当する先生にとっても、あらゆる場面での手助けとなる指導書です。

第4章 ③人口・食料問題 教科書 p.182~189

2 世界各地の人口問題 52 総ページ数 52 総ページ数

学習のねらい

- 人口が増えている世界の現状をたるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題を整理する。
- 持続可能な社会をつくるために、前提とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を基に、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から視座をもとにSDGsと関連づけ対応策を構築する。

学習の流れ

- イントロ(10分)** 前提、人口問題とは何かをまず考え、地域ごとの人口問題の現状を把握する。その上で、持続可能な社会をつくるために、前提とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を基に、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から視座をもとにSDGsと関連づけ対応策を構築する。
- 解説(20分)** 世界における人口増加の地域的傾向を整理する。その上で、持続可能な社会をつくるために、前提とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を基に、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から視座をもとにSDGsと関連づけ対応策を構築する。
- まとめと探究(10分)** 世界各地の人口問題の現状を把握する。その上で、持続可能な社会をつくるために、前提とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を基に、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から視座をもとにSDGsと関連づけ対応策を構築する。

板書例

a. 増え続ける人口とその課題

インドの人口：現在は第2位。
2027年には中国をこえ第1位に。
→働き手としての必要から国全体として多産状態：
→深刻な労働力不足、社会保障や財政の維持が困難に。

c. 少子化・高齢化とその課題

フランスや北米諸国
→1970年代から合計特殊出生率が低水準で、
→1990年代：高齢人口の急増がカギ(エイジング)で高齢化。
→1980年代以降：合計特殊出生率は世界平均を下回る
→ 都市部では家族計画定着。
→ 高齢者は女性の割合が高く、
→ 合計特殊出生率も低い。
→ 少子化・高齢化が進行
→ 深刻な労働力不足、社会保障や財政の維持が困難に。

解説(20分)

1. 人口と人口問題

人口が増えている世界の現状をたるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題を整理する。

2. 世界各地の人口問題

世界における人口増加の地域的傾向を整理する。その上で、持続可能な社会をつくるために、前提とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を基に、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から視座をもとにSDGsと関連づけ対応策を構築する。

まとめと探究

問いのヒント

インドの合計特殊出生率は、北部が高く、南部で低い傾向がある。p.188~189「食料問題と食料問題」で解説されている。世界の人口問題を整理し、インドの国内の自然条件、宗教、言語、産業などの南北差と対比させることにより、考察を促したい。例えば、耕作や労働力不足が行われている地域をみると、文化圏や宗教、合計特殊出生率の違いも関係する。これにより、高い出生率の背景には、産業の発達による経済水準の向上があると考えられる。

まとめと探究

問いのヒント

以下のようなテーマで話し合うことが考えられる。
①日本の少子化・高齢化問題とインドの少子化・高齢化問題とを比べて、経済的な理由が異なるか？インドのように地域的な傾向を捉えて、都市部と農村部を比べてみる。限られた生活用水をどう使うか？
②日本でもフランスのように、結婚抑制と変わらない形で、カップルの子供を産み、育てていくことはできるだろうか？その理由を考察する。

まとめと探究

問いのヒント

インドの合計特殊出生率は、北部が高く、南部で低い傾向がある。p.188~189「食料問題と食料問題」で解説されている。世界の人口問題を整理し、インドの国内の自然条件、宗教、言語、産業などの南北差と対比させることにより、考察を促したい。例えば、耕作や労働力不足が行われている地域をみると、文化圏や宗教、合計特殊出生率の違いも関係する。これにより、高い出生率の背景には、産業の発達による経済水準の向上があると考えられる。

まとめと探究

問いのヒント

以下のようなテーマで話し合うことが考えられる。
①日本の少子化・高齢化問題とインドの少子化・高齢化問題とを比べて、経済的な理由が異なるか？インドのように地域的な傾向を捉えて、都市部と農村部を比べてみる。限られた生活用水をどう使うか？
②日本でもフランスのように、結婚抑制と変わらない形で、カップルの子供を産み、育てていくことはできるだろうか？その理由を考察する。

まとめと探究

問いのヒント

インドの合計特殊出生率は、北部が高く、南部で低い傾向がある。p.188~189「食料問題と食料問題」で解説されている。世界の人口問題を整理し、インドの国内の自然条件、宗教、言語、産業などの南北差と対比させることにより、考察を促したい。例えば、耕作や労働力不足が行われている地域をみると、文化圏や宗教、合計特殊出生率の違いも関係する。これにより、高い出生率の背景には、産業の発達による経済水準の向上があると考えられる。

まとめと探究

問いのヒント

以下のようなテーマで話し合うことが考えられる。
①日本の少子化・高齢化問題とインドの少子化・高齢化問題とを比べて、経済的な理由が異なるか？インドのように地域的な傾向を捉えて、都市部と農村部を比べてみる。限られた生活用水をどう使うか？
②日本でもフランスのように、結婚抑制と変わらない形で、カップルの子供を産み、育てていくことはできるだろうか？その理由を考察する。

教科書紙面を中央に配置し、その周辺に紙面から引出し線を用いて、本文・図版・コラムなどの解説や補足、参考資料を掲載しています。

第3節 人口・食料問題 教科書 p.182~189

1 人口と人口問題 p.182

少子高齢化(p.182) 少子化と高齢化が同時に進行している状況のこと。少子化とは、出生率の低下が継続することにより総人口に占める年少人口(15歳未満)の割合が低下すること、高齢化とは、総人口に占める老年人口(65歳以上)の割合が増加することである。一般に、老年人口の総人口に占める割合が7%以上で高齢社会、14%以上で高齢社会、21%以上で超高齢社会と呼ばれる。少子化・高齢化は、老年人口率を急上昇させるとともに生産年齢人口の割合を低減させ、経済の成長力を押し下げる要因になる。また、日本の社会機能をそのまま維持することが難しく、これへの対応が課題である。

人口転換(人口革命)(p.183) 人口増加、出生数と死亡数の差である自然増加と、人口移動による社会増加とを足した合計増加量のこと。出生数と死亡数の差を自然増加、人口移動による社会増加とを人口転換量と示している。出生数と死亡数の差が正のときは人口増加、出生数と死亡数の差が負のときは人口減少を示している。

人口問題(p.183) 人口問題という、人口爆発といわれる世界規模の人口増加をイメージするが、人口問題そのものも多岐である。近年のヨーロッパ諸国や日本韓国などでは少子高齢化が進み、また、グローバル社会に及ぼす影響が懸念されている。また、グローバル社会により、世界規模の人口移動が進んでいることも様々な問題を生み起している。また、人口問題は単体で存在するのではなく、全ての地球課題と密接に結び付いている。発展途上国で続く人口増加は食料不足につながるが、それが過剰な消費や過剰な排出を伴えば環境問題と結び付く。生活の場を失った人々が都市圏に集まれば、居住・都市問題となる。限られた生活用水をどう使うか？
②日本でもフランスのように、結婚抑制と変わらない形で、カップルの子供を産み、育てていくことはできるだろうか？その理由を考察する。

2 三つの食料問題 p.186

栄養不足(p.186) 栄養不足人口の割合が高い国々については、サハラ以南のアフリカに集中している。総人口が多岐でも、栄養不足人口は相当な数に達するものと推察できる。また、リビアや南北スーダン、ソマリアなどは資料と分類されているが、内戦が続く国家の実情を調査できない国々こそ、最も悲劇的な事例である。

3 食料増産ともなる課題 p.188

土壌の侵食(p.188) 土壌の侵食と、風や降水、降雪などが相まって、表土の侵食が激しく土地が荒廃する。アフリカ合衆国では1の小麦を生産する際に1tの肥沃な土壌が失われるといわれる。対策として、等高線に沿って耕地を造成する等高線耕作や防風林の造成、土壌侵食防止の設置などがなされる。農業を計画的に休耕し土壌改良を加えることもある。

キャッサバ(p.189) キャッサバはマニオクとも呼ばれる。キャッサバの根茎から採る澱粉をタピオカという。原産地はブラジルのアマゾン川流域で、主要な産地はナイジェリアなどのポニー諸国やタイなどの東南アジア、ブラジルである。栽培が容易で澱粉質の生産効率が非常に高く、熱帯気候の主要な産物となっている。

灌漑(p.189) 農地に人工的に水を供給することをいう。灌漑には、河川水、湖沼水、地下水、灌漑水路の活用などの工夫もみられる。紀元前6千年にはメソポタミアやエジプト、イランですでに灌漑が行われていたと推察されている。近年、スピンクラーの一種である自動散水システムが注目を集めている。日本でも年間297万tも排出される食品ロス(廃棄物のうち、632万tが食品ロスとされている(平成25年度推計)。小売店や販売店では、売切り工券や食べ残しを持ち帰りを奨励するなど、家庭では保存の工夫、質素(消費)期間の確保などそれぞれの努力が求められている。

食料問題(p.183) 人口問題という、人口爆発といわれる世界規模の人口増加をイメージするが、人口問題そのものも多岐である。近年のヨーロッパ諸国や日本韓国などでは少子高齢化が進み、また、グローバル社会に及ぼす影響が懸念されている。また、グローバル社会により、世界規模の人口移動が進んでいることも様々な問題を生み起している。また、人口問題は単体で存在するのではなく、全ての地球課題と密接に結び付いている。発展途上国で続く人口増加は食料不足につながるが、それが過剰な消費や過剰な排出を伴えば環境問題と結び付く。生活の場を失った人々が都市圏に集まれば、居住・都市問題となる。限られた生活用水をどう使うか？
②日本でもフランスのように、結婚抑制と変わらない形で、カップルの子供を産み、育てていくことはできるだろうか？その理由を考察する。

4 食料増産ともなる課題 p.188

食料増産ともなる課題

土壌の侵食(p.188) 土壌の侵食と、風や降水、降雪などが相まって、表土の侵食が激しく土地が荒廃する。アフリカ合衆国では1の小麦を生産する際に1tの肥沃な土壌が失われるといわれる。対策として、等高線に沿って耕地を造成する等高線耕作や防風林の造成、土壌侵食防止の設置などがなされる。農業を計画的に休耕し土壌改良を加えることもある。

キャッサバ(p.189) キャッサバはマニオクとも呼ばれる。キャッサバの根茎から採る澱粉をタピオカという。原産地はブラジルのアマゾン川流域で、主要な産地はナイジェリアなどのポニー諸国やタイなどの東南アジア、ブラジルである。栽培が容易で澱粉質の生産効率が非常に高く、熱帯気候の主要な産物となっている。

灌漑(p.189) 農地に人工的に水を供給することをいう。灌漑には、河川水、湖沼水、地下水、灌漑水路の活用などの工夫もみられる。紀元前6千年にはメソポタミアやエジプト、イランですでに灌漑が行われていたと推察されている。近年、スピンクラーの一種である自動散水システムが注目を集めている。日本でも年間297万tも排出される食品ロス(廃棄物のうち、632万tが食品ロスとされている(平成25年度推計)。小売店や販売店では、売切り工券や食べ残しを持ち帰りを奨励するなど、家庭では保存の工夫、質素(消費)期間の確保などそれぞれの努力が求められている。

食料問題(p.183) 人口問題という、人口爆発といわれる世界規模の人口増加をイメージするが、人口問題そのものも多岐である。近年のヨーロッパ諸国や日本韓国などでは少子高齢化が進み、また、グローバル社会に及ぼす影響が懸念されている。また、グローバル社会により、世界規模の人口移動が進んでいることも様々な問題を生み起している。また、人口問題は単体で存在するのではなく、全ての地球課題と密接に結び付いている。発展途上国で続く人口増加は食料不足につながるが、それが過剰な消費や過剰な排出を伴えば環境問題と結び付く。生活の場を失った人々が都市圏に集まれば、居住・都市問題となる。限られた生活用水をどう使うか？
②日本でもフランスのように、結婚抑制と変わらない形で、カップルの子供を産み、育てていくことはできるだろうか？その理由を考察する。

まとめと探究

問いのヒント

以下のようなテーマで話し合うことが考えられる。
①日本の少子化・高齢化問題とインドの少子化・高齢化問題とを比べて、経済的な理由が異なるか？インドのように地域的な傾向を捉えて、都市部と農村部を比べてみる。限られた生活用水をどう使うか？
②日本でもフランスのように、結婚抑制と変わらない形で、カップルの子供を産み、育てていくことはできるだろうか？その理由を考察する。

まとめと探究

問いのヒント

以下のようなテーマで話し合うことが考えられる。
①日本の少子化・高齢化問題とインドの少子化・高齢化問題とを比べて、経済的な理由が異なるか？インドのように地域的な傾向を捉えて、都市部と農村部を比べてみる。限られた生活用水をどう使うか？
②日本でもフランスのように、結婚抑制と変わらない形で、カップルの子供を産み、育てていくことはできるだろうか？その理由を考察する。

まとめと探究

問いのヒント

以下のようなテーマで話し合うことが考えられる。
①日本の少子化・高齢化問題とインドの少子化・高齢化問題とを比べて、経済的な理由が異なるか？インドのように地域的な傾向を捉えて、都市部と農村部を比べてみる。限られた生活用水をどう使うか？
②日本でもフランスのように、結婚抑制と変わらない形で、カップルの子供を産み、育てていくことはできるだろうか？その理由を考察する。

図版解説

引出し線などを活用し、図表を読み解くポイントや背景をわかりやすく解説しています。

豆知識

教科書に掲載した豆知識について、その背景の解説や、補足事項を掲載しています。

情報源

学習に役立つ資料やウェブサイトについて、URLとともに紹介します。

「まとめと探究」問いのヒント

さらなる探究を促す問いについて、解答例や手がかりとなるヒントを掲載しています。

用語解説・事項解説

教科書に出てくる用語について、単なる用語解説に留まらず、その用語が使われている背景も含めて、丁寧に説明しています。

また、教科書で取り上げた事項について、教科書に書ききれない詳しい背景や、地理的な動向を詳しく解説しています。

参考図書

分野・地域ごとに、基礎的な概念や最新の動向を知ることができる参考図書を、厳選して紹介しています。

2種類の指導書、それぞれの特徴を活かしながら、ご活用ください。

地理総合 教師用指導書DVD

地総 704 準拠

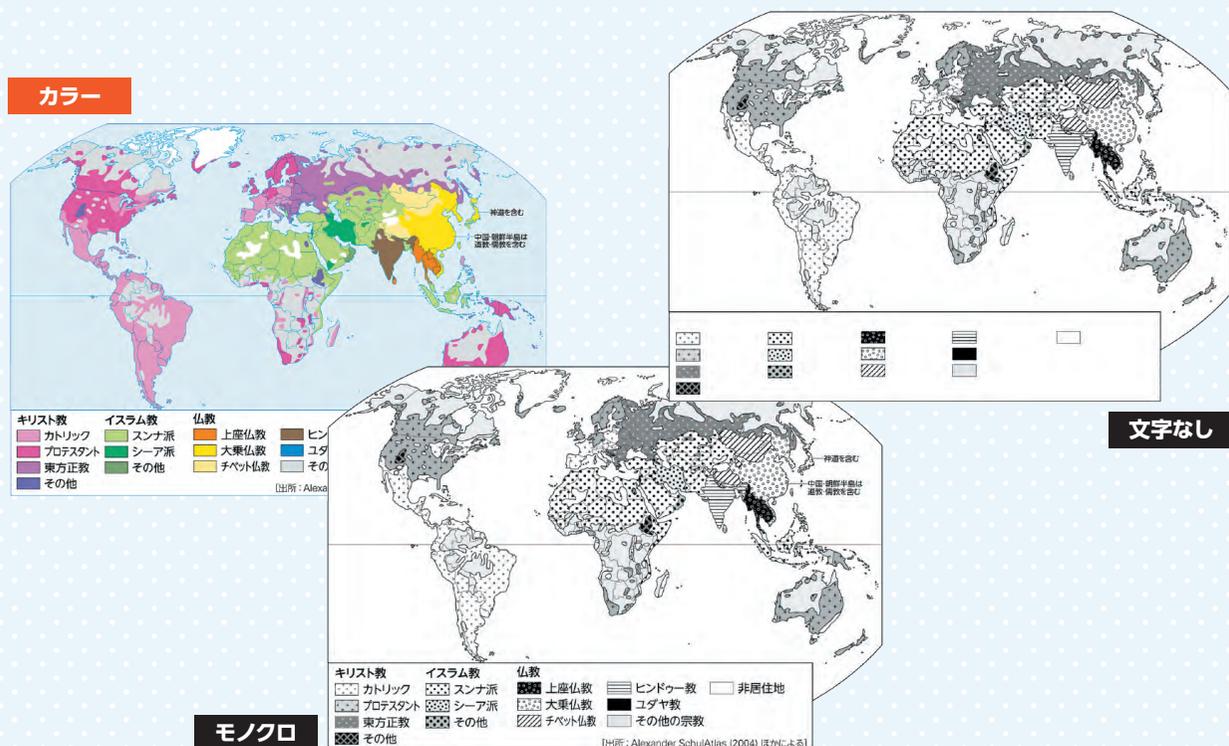
授業の準備やテスト作成時に有効な「教科書掲載図版」、授業時に板書として掲示する「授業用スライド」、教科書に準拠し自由に改変できる「定期考査問題例」など、豊富なコンテンツをDVDに収録しています。

- 【収録予定コンテンツ】
- ① 教科書データ (紙面 PDF形式, 本文テキスト Word形式)
 - ② 教師用指導書データ (紙面 PDF形式)
 - ③ 教科書掲載図版 (PNG形式)
 - ④ 授業用スライド (PowerPoint形式)
 - ⑤ 授業用ワークシート (Word形式)
 - ⑥ 定期考査問題例 (Word形式)
 - ⑦ 地理総合 一問一答 (Word形式)

※制作中につき、内容や体裁は変更になる場合がございます。

③ 教科書掲載図版 (カラー, モノクロ, 文字なし)

- 教科書の図版をカラー, モノクロ, 文字なしの3種類で収録
- モノクロ化の際, 色数の多い図版は, 網掛けやパターンなどを用いて塗り分け



④ 授業用スライド



- 教科書の単元ごとに構成
- 要点を整理し, 学習のポイントを明示
- 授業スタイルにあわせてアレンジが可能

世界の気候

- ▶ 気候とは何か
 - ▶ その地域で1年周期でくり返される大気の状態
- ▶ 地球をめぐる大気の循環
 - ▶ 地球規模の降水分布の要因
 - ▶ 熱帯収束帯
 - ▶ 湿った空気が上昇し降水量が多い
 - ▶ 亜熱帯高圧帯
 - ▶ 熱帯で上昇した気流が下降気流となり乾燥
 - ▶ 高緯度低圧帯
 - ▶ 亜熱帯からの暖気と極地方からの寒気がぶつかる

日本の地形の特徴

- ▶ プレート境界に位置する日本列島
- ▶ 四つのプレート
 - ▶ 太平洋プレート
 - ▶ フィリピン海プレート
 - ▶ 北アメリカプレート
 - ▶ ユーラシアプレート
- ▶ 自然災害
 - ▶ プレート境界にみられる災害が多い

資源・エネルギーの消費

- ▶ 資源・エネルギー消費の地域的格差
 - ▶ 資源の消費には地域差がみられる
 - ▶ 資源を産出できない国...輸入に依存
 - ▶ 鉄鉱石...日本, ドイツ, イギリス等では100%海外から輸入
 - ▶ 中国...鋼の地金の生産量も多いが, 消費量も多いため輸入
 - ▶ エネルギー消費量は純度の高い国が多い
 - ▶ 多くは先進国→工業化が進み, 自家用車の保有率も高い
- ▶ 資源・エネルギーの消費国の課題
 - ▶ 将来的な資源・エネルギーの確保
 - ▶ 環境破壊への対処

⑥ 定期考査問題例



- 教科書の単元ごとに作問
- さまざまなパターンの出題形式
- 定期考査・小テストに改変が可能

第1問 右の図は、中国について、最近10年間の人口増加率を示したものである。図中のA～Fは、それぞれ、図1中のA～Fのどの地域について述べたものであるか考えなさい。また、文中の(ア)～(キ)に入るべき語句をそれぞれ答えなさい。

国	人口(万人)	出生率(‰)	死亡率(‰)
中国	1382323	144.8	12.4
インド	1328402	144.8	20.0
アメリカ	324119	40.6	12.4
ロシア	143460	92.2	12.4
ドイツ	80682	8.4	12.4
フランス	65000	11.7	7.3
イギリス	61000	11.7	6.1
日本	12700	12.9	10.9
韓国	4700	12.9	6.3

第2問 世界の各地域内で人口密度の最も高い国の人口、出生率、死亡率、死亡率を答えなさい。A～Eはアジア、アフリカ、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアの地域を示している。

デジタル教材

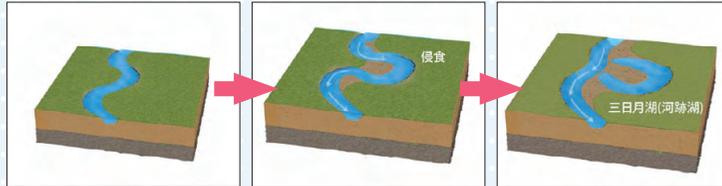
自然地理アニメーション

2022年2月発売予定

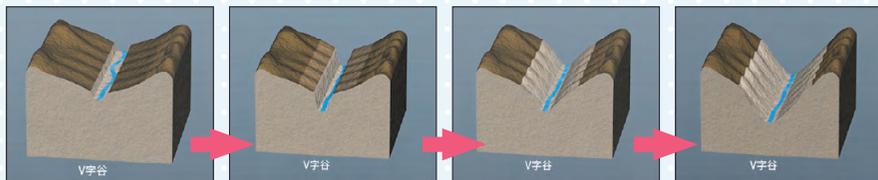
収録動画30点以上 DVD-ROMでの提供予定 (定価は未定)

大地形や小地形の形成、液状化や河川の氾濫、大気の流れやフェーン現象など、自然環境の分野には教科書の模式図だけでは理解が難しい現象が多くみられます。自然地理アニメーションでは、地形の形成の推移や気候のしくみを動画でシンプルに示すことで、視覚を通し直接的に理解を促します。

- 各動画は途中停止や場面選択が可能。
- 動画の進行に合わせて解説字幕とナレーションが入ります。どちらもon/offが可能です。
- さらに詳しい解説をPDFで用意します。



【三日月湖の形成】



【V字谷の形成】

※制作中につき、内容や体裁は変更になる場合がございます。

掲載テーマ例

- ・プレート境界の動き(4タイプ)
- ・火山の爆発(4タイプ)
- ・扇状地の形成
- ・洪水による自然堤防の形成
- ・氷河地形の形成
- ・河川の外水氾濫・内水氾濫
- ・大気の大循環
- ・フェーン現象

デジタル地図帳 Ninomap

2022年2月発売予定

収録地図30点以上 DVD-ROMでの提供予定 (定価は未定)

(新課程の開始に合わせて改訂いたします)

弊社の地図帳に掲載されている世界地図、日本地図、日本の都市図を、国名や河川などレイヤーを切り替えながら表示できるデジタル地図帳です。

- レイヤー(国名、自然地名)ごとの表示・非表示が可能。
- プロジェクトで表示すれば掛地図としても使えます。



目次機能

ワンクリックでいたい地図へすぐに切り替わります。

背景画面の設定

標高による色彩モードと白地図モードに切り替え可能。

描画・保存機能

描画した地図画面を保存できます。

※制作中につき、内容や体裁は変更になる場合がございます。

こちらもオススメ

山川&二宮ICTライブラリ

2021年3月1日サービス開始

歴史・地理の豊富なコンテンツをオンラインで提供する、新しいサービスです。新課程の歴史総合/地理総合に対応したコンテンツは、2021年秋より追加予定です。歴史の山川出版社と地理の二宮書店が、ICTを活用した授業をサポートいたします。



授業準備の時間短縮に

プリントや試験問題の作成に

ICT教育を促進

オンライン授業にも対応

アクセスはこちらから / <https://ywl.jp/service>



法人向け定額制コース ¥70,000/月 (税込 ¥77,000)

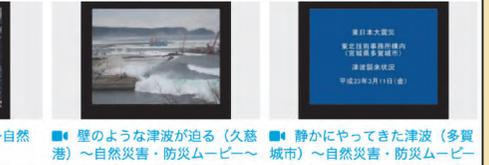
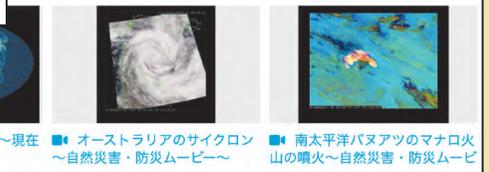
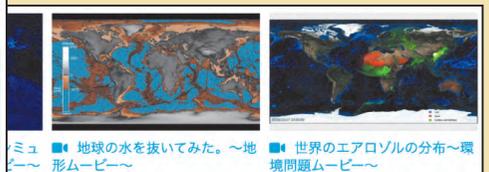
個人向け定額制コース ¥1,200/月 (税込 ¥1,320)

サービスについてのお問い合わせは、①学校名 ②先生名 ③お電話番号 ④メールアドレスを明記の上、上記サイトの〈サービスについてのお問い合わせ〉からご連絡ください。



地理教科書・歴史教科書の豊富な図版データが使用可能!

地理・歴史の垣根をこえて指導の題材を集めることができるので、授業の幅が広がります。



地形・気候・環境問題・防災に関連した動画を多数収録!

国内外の、地理学習に適した動画素材を厳選。生徒の好奇心を促します。

年間指導計画 作成資料

弊社ウェブサイトと同内容のExcelファイルを用意しています。ダウンロードしてご利用ください。

学習の到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
使用教材	教科書：「地理総合」「詳解現代地図 最新版」 副教材：「地理総合ワークブック」「アトラスワークブック」

※ 年間授業時数を35週(35×2)、全70時と設定しました。2学期/3学期制を考慮して、それぞれの指導計画を提示しています。
第3章は、「自然」「社会」「経済」「文化」からそれぞれ1事例を選択して学習します。

章	節	項	学習内容とねらい	配当時				
				月	時数	授業時		
導入：地理の扉								
1 地図とGISの活用	1 地球上の世界	1.位置の基準～地球上の緯度・経度	・地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、日常生活における時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。	4月	6	1	1学期中間	
		2.時間の基準～時差と標準時				2		
	2 世界からみた日本の位置と領域	1.視点をえてみた日本の位置	・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 ・グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える。			3		
		2.国家とその領域				4		
		3.海に広がる日本の領域				5		
		4.日本の領域に関する問題				6		
	3 国内や国家間の結びつき	1.国家間の結びつき	・グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 ・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。 ・グローバルな視点から持続可能な社会の形成のために、資料を根拠として示しながら課題解決のための方策を多面的・多角的に考える。	7				
		技能：主題図・グラフの読み方		8				
	4 暮らしのなかの地図とGIS	1.身の回りの地図を集める	・身近な地図を集め、それらの地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。 ・地図情報を活用する方法として、紙地図と電子地図としてのGISがあることを理解し、地理院地図や地形図を通して認識する。 ・GISが日常生活にも利用されている実例を捉え、大量の地理情報を処理できるGISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 ・GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身につける。	9				
		2.地理院地図の活用		10				
ステップアップ① ぶらり散歩地図をつくらう。				5月	9	11	15	
導入：写真から読み解く地理的環境の特色								
2 地理的環境の特色	1 地形と生活文化	1.変動帯とプレート	・世界の大地形の広がりやプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し、変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 ・河川、海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり、およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。	6月	6	16	1学期期末	
		2.河川がつくる地形と生活				17		
	3.海岸の地形と生活	18						
	技能：地理院地図・地形図の読図	19						
	2 気候と生活文化	1.大気循環	・世界的な視野から大気や海流が循環するしくみを捉え、地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。 ・降水量と気温の特徴をふまえながら世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などの人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。 ・熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつのか、どのような生活の工夫があるのか、写真や雨温図などの資料から考える。			20		
		2.気候の地域性				21		
		3.ケッペンの気候区分		22				
		4.熱帯の自然環境と生活		23				
	3 産業と生活文化	1.農業の発展と生活文化	・世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける第1次産業、第2次産業、第3次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・産業の発達と生活文化がどのようにかわるのか、産業はどのように変化してきているのか、主題図などの資料を通じて理解を深める。	24				
		2.工業の発展と生活文化		25				
4 宗教・言語と生活文化	1.宗教の分布と生活文化	・世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。	26					
	2.言語の分布と生活文化		27					
導入：各地域の生活文化と地理的環境のかかわり				7月	5	18		
3 世界各地の生活文化	1 経済発展と生活文化の変化～東アジア	導入～1.経済発展を支える自然・農業と生活文化	・社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの中国と韓国を例に両国の特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。 ・特に世界や日本、中国、韓国の3か国とのつながりから両国の経済発展の発達過程について理解し、経済発展の結果として起きている様々な問題について生活文化と対応させながら考える。	9月	7	27	2学期中間	
		2.市場経済化と生活文化の変化～中国				28		
		3.輸出による発展と生活文化の変化～韓国				29		
		4.経済発展による変化と課題				30		
	2 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国	導入～1.多民族社会とASEANの統合	・多民族社会と地域統合に焦点を当て、様々な言語や宗教をもつ東南アジア諸国の人々の生活文化にはどのような特色がみられるのか、主題図や写真などの資料をもとに理解する。 ・特に仏教、イスラム教、キリスト教の各文化圏における生活文化の多様性や多言語・多民族社会の様子、また豊かな資源を背景に経済発展を遂げるASEAN諸国の現状と課題について考える。	31				
		2.宗教にのぞした生活文化と産業		32				
	3 水の恵みと生活文化～南アジア	導入～1.河川による恵みと生活文化	・水資源に焦点を当て、地形、気候などの自然環境を捉えながら、水資源と宗教、農業、文化や産業の成立の関わりを主題図やグラフなどの資料を通じて理解する。 ・経済成長を背景とした水資源の課題を周辺国とのつながりから考える。	33				
		2.水の恵みによる発展と課題		34				
	導入：世界地図でとらえる自然災害のリスク				10月	8	15	
	4 地球的課題と国際協力	1 地球環境問題	1.環境問題と持続可能な社会	・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であることをSDGsをふまえて認識する。 ・深刻な地球環境問題を生じている大気汚染、森林減少、砂漠化、気候変動について事例をあげて捉え、それぞれの影響と将来の予測から解決の取り組みについて考える。	12月	8	45	2学期期末
2.国境を越える汚染			46					
2 資源・エネルギー問題		1.鉱物資源・エネルギー資源とその課題	・地球規模で起こる資源の問題について主題図などの資料をもとに考え、偏在して分布することで保有国と非保有国の間に格差があることを認識する。 ・エネルギー資源の変化を捉えながら資源の大量消費によって枯渇の恐れがあることを認識し、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。	47				
		2.資源のリサイクル・再生可能エネルギー		48				
3 人口・食料問題		1.人口と人口問題	・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。 ・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。	49				
		2.世界各地の人口問題		50				
4 居住・都市問題		1.発達する都市	・世界では都市に人口が集まる現象がみられることを主題図やグラフから読み取り、人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえて理解する。 ・途上国の大都市を中心に人口集中に伴う問題が生じていることを捉え、問題の要因を理解しながら、都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ、SDGsと関連づけ都市問題の解決策を考える。	51				
		2.都市への人口集中にともなう問題		52				
ステップアップ③ 「誰も置き去りにしない世界」を考える。				53	54	55	56	
導入：世界地図でとらえる自然災害のリスク				57	58	59	60	
5 生活圏の諸課題	1 日本の自然環境と防災	1.世界からみた日本の地形の特色	・日本列島の地形と気候の特徴を主題図、グラフ、写真などの資料をもとに、多様性や自然の恵みがあることを認識しながら、自然災害を与える要素があることを理解する。 ・日本各地では毎年のように様々な自然災害が起きていることを理解するため、風水害、火山、地震・津波、都市型の災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能とともに捉える。 ・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどのような良いのか考え、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。	1月	7	61	3学期中間	
		2.世界からみた日本の気候の特色				62		
	2 生活圏の諸課題と地域調査	1.主題図からみた日本の特徴と課題	・日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。			63		
		2.地域調査① 事例地域の選定～事前調査				64		
		3.地域調査② 現地調査～調査地図の作成				65		
		4.地域調査③ 他地域との比較～まとめ				66		
	ステップアップ④ 地図を防災・避難行動に役立てよう。				67	68	69	70
	導入：地理の力で地域の課題を解決しよう。				2・3月	5	12	
	ステップアップ⑤ 地域調査の結果を発信しよう							

評価規準

弊社ウェブサイトと同内容のExcelファイルを用意しています。ダウンロードしてご利用ください。

章	節	項	授業時	評価の規準			評価方法	
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
導入：地理の扉								
1 地図とGISの活用	1 地球上の世界	1.位置の基準～地球上の緯度・経度	1	地球上での位置、太陽高度の変化、緯度経度のしくみ、時差の計算について理解できたか。	球体としての地球の観点から、図を活用して地球上の位置や時差のしくみを捉え、説明できたか。	球体としての地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組むことができたか。	リアクションペーパー 調査	
		2.時間の基準～時差と標準時	2					
		2 世界からみた日本の位置と領域	1.視点を変えてみた日本の位置	3	世界地図を主な図法と利用について理解できたか。	世界地図を図法の違いにより使い分けられたか。	様々な世界地図の違いに関心を持ち、資料などから様々な世界地図の存在に気づくことができたか。	リアクションペーパー 調査
			2.国家とその領域	4	国家の領域に関する知識を身につけ、日本の領土問題について歴史的背景と空間的広がりを理解できたか。	世界の地図や領域について世界的視野から捉え、日本の領域をめぐる問題を考察できたか。		
	3 国内や国家間の結びつき	1.国家間の結びつき	7	人・モノ・情報の結びつきに関する知識を身につけたか。	複数の統計地図を結びつけ、世界の結びつきや偏りについて考察したことを説明できたか。	統計資料を意欲的に読み取り、それを表現できたか。	課題（統計地図の作成） リアクションペーパー 調査	
		2.交通・通信による結びつき	8					
		3.貿易・物流による結びつき	9					
		4.観光による結びつき	10					
	4 暮らしのなかの地図とGIS	1.身の回りの地図を集める	11	GISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解し、GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法を身につけたか。	身近な地図について、目的により表現方法に違いがあることが判断できたか。	身の回りの地図に興味を持ち、意欲的に地図の知識を活用できたか。GISの作業に意欲的に取り組み、GISで作成した地図から地域の特徴を分析しようとしたか。	課題（GISによる地域分析） リアクションペーパー 調査	
		2.地理院地図の活用	12					
		3.GISのしくみと役割	13					
		4.GISチャレンジ：GISで町の特徴をさぐってみよう	14					
	ステップアップ① ぶらり散歩地図をつくろう。							
	導入：写真から読み解く地理的環境の特色							
2 地理的環境の特色	1 地形と生活文化	1.変動帯とプレート	16	地形についての知識を身につけ、世界的視野から地形の分布の特徴を捉えることができたか。	世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、世界の地形配置と比較しながら考察できたか。	地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組んだか。地形図を用いた作業に意欲的に取り組み、地形と人間生活とのつながりを捉えようとしたか。	課題（地形断面の作成） リアクションペーパー 調査	
		2.河川がとくする地形と生活	17					
		3.海岸の地形と生活	18					
	2 気候と生活文化	1.大気の大循環	20	大気の大循環と海洋に起因した大気のしくみを理解できたか。	世界規模の大気の大気循環と人間生活に及ぼしていることを資料をもとに考察できたか。	雨温図や写真の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化の対応について意欲的に探究できたか。	課題（雨温図の作成） リアクションペーパー 調査	
		2.気候の地域性	21					
		3.ケッペンの気候区分	22					
		4.熱帯の自然環境と生活	23					
		5.乾燥帯の自然環境と生活	24					
		6.温帯の自然環境と生活	25					
		7.亜寒帯・寒帯の自然環境と生活	26					
	3 産業と生活文化	1.農業の発展と生活文化	27	世界の視野からみた産業の特徴と分布を概観できたか。	自然環境が産業の形成に関与していることを資料をもとに考察できたか。	身近な商品が世界規模の産業構造の中に位置づけられることを意欲的に探究できたか。	発表（身近な商品と国際的な流通） リアクションペーパー 調査	
		2.工業の発展と生活文化	28					
		3.サービス業の発展と生活文化	29					
	4 宗教・言語と生活文化	1.宗教の分布と生活文化	30	世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要であることを理解したか。	生活と宗教の関わりについて地域性や歴史的背景をもとに捉え、資料をもとに考察できたか。	世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて探究できたか。	レポート（世界の難民問題を調べ） リアクションペーパー 調査	
		2.言語の分布と生活文化	31					
		3.移民と難民	32					
		4.生活文化の多様性	33					
	導入：各地域の生活文化と地理的環境のかかわり							
	3 世界各地の生活文化	1 経済発展と生活文化の変化～東アジア	1.導入～1.経済発展を支える自然・農業と生活文化	39	図版や写真から社会経済システムの特徴と変化を捉え、課題を整理できたか。	中国や韓国工業の発展に伴う人口や環境などへの影響について、主題図などの資料をもとに考察できたか。	身の回りの中国や韓国の商品を意欲的に調べ、中国や韓国の経済成長と課題について探究できたか。	レポート（身の回りの中国製品と韓国製品を調べ） リアクションペーパー 調査
2.市場経済化と生活文化の変化～中国			40					
3.輸出による発展と生活文化の変化～韓国			41					
4.経済発展による変化と課題			41					
2 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国		1.導入～1.多民族社会とASEANの統合	36	図版や写真から多民族社会を構成する地域的な特徴を捉え、生活文化と宗教に及ぼした生活文化と産業	重層的、複合的に成立しているASEAN諸国を例に主題図や写真から言語・宗教の観点で特徴を見出すことができたか。	多様な言語・宗教からなるASEANにおける経済成長と経済格差について意欲的に探究できたか。	グループ協議（ASEANの統合と課題） リアクションペーパー 調査	
		2.多様な宗教・言語と経済統合による課題	37					
		3.ASEAN諸国を例に多様な民族が暮らす国々が統合を進めていった背景や課題について理解できたか。	38					
		3 水の恵みと生活文化～南アジア	34	図版や写真から自然環境を捉え、生活文化との対応や経済の変化を整理できたか。	インドを例に自然環境と農業のつながりを資料をもとに考察できたか。	生活文化と産業の進展の関連や市場経済の進展による自然環境への影響など、地域の課題を多角的、多面的に探究できたか。	レポート（水問題と改善への取り組み） リアクションペーパー 調査	
4 イスラム社会の多様性と生活文化～イスラム圏		1.導入～1.乾燥地域とイスラムの社会	36	図版や写真からイスラムの特徴を捉え、自然環境と生活文化との対応を整理できたか。	写真に見られる共通性と異質性をまとめ、写真と地図を組み合わせ考察し、イスラム圏の生活文化を説明できたか。	イスラム圏の生活文化を意欲的に調べ、圏内の共通点や相違点を探究できたか。	発表（イスラム圏の人々の生活） リアクションペーパー 調査	
		2.経済発展とイスラム社会の変化	37					
		3.イスラム圏の現状と課題	38					
		5 多様な気候と生活文化～アフリカ	34	図版や写真から多様な自然環境の特徴を捉え、自然環境と生活文化との対応と地域の変化を整理できたか。	地形、気候、歴史的背景とともに生活文化の多様性を考察できたか。	食文化や生活の工夫を調べ、多様な自然環境の広がりとその対応を見出し、意欲的に探究できたか。	発表（課題をSDGsの観点で調べる） リアクションペーパー 調査	
2.経済成長と自然環境の変化による課題		2.経済成長と自然環境の変化による課題	35					

章	節	項	授業時	評価の規準			評価方法	
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4 地球の課題と国際協力	6 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国	1.導入～1.経済発展の礎となった自然環境と農業	39	図版や写真から産業の発達や地域統合を捉え、自然環境や言語、宗教と関連づけて整理できたか。	ヨーロッパの農業と気候との対応や工業地域の近年の変化について、主題図をもとに考察できたか。	農業、工業の特徴を捉えとともに、気候や地域統合の広がりなどの要素との関連に関心をもって意欲的に取り組むことができたか。	グループ協議（EUの統合と課題） リアクションペーパー 調査	
		2.産業・交通の発達による一体化	40					
		3.統合を進める背景と言語・宗教の多様性	41					
		4.経済統合と政治統合の進展と課題	41					
	7 寒冷な気候と生活文化～ロシア	1.導入～1.寒冷な気候と生活・産業	34	図版や写真から寒冷な自然環境の特徴を捉え、生活文化や産業の発達と関連づけて整理できたか。	寒冷な気候と生活文化との関連を捉え、開発が自然環境に与えた影響と課題について考察できたか。	寒冷地域の自然環境と生活文化の相互の関連を捉え、ロシアの特徴を意欲的に追究できたか。	グループ協議（日口の模擬環境開発会議） リアクションペーパー 調査	
		2.寒冷地域の開発による成長と課題	35					
	8 グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ	1.導入～1.経済発展の基盤となった社会の多様性	39	図版や写真からアメリカの産業を捉えながら、世界の生活文化や経済への影響を整理できたか。	グローバルな観点からアメリカの社会経済システムを主題図などの資料から捉え、世界の経済や生活文化への影響を考察できたか。	アメリカの社会経済システムを農業、工業などの観点から多面的、多角的に捉え、世界への影響を意欲的に探究できたか。	発表（アメリカの貿易体制と世界の人の変化） リアクションペーパー 調査	
		2.大規模な農業とグローバルな食文化	40					
		3.グローバル化による変化と課題	41					
		9 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ	42	図版や写真から開発の背景を捉え、開発と自然環境、生活文化、産業との関わりを整理できたか。	図版と写真から、自然環境と生活文化の共通性と異質性を開発の歴史から考察できたか。	自然環境と生活文化の相互の関連を捉え、開発の背景について意欲的に探究できたか。	グループ協議（諸問題の現状と課題解決） リアクションペーパー 調査	
10 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア	1.導入～1.植民による開発と生活文化	42	図版や写真から農業と鉱業の観点からみた開発の背景を比較しながら整理できたか。	2つの国の開発の背景を比較し、共通点と相違点を考察できたか。	2つの国を比較して開発の背景を捉え、植民と移民による産業の進展を意欲的に探究できたか。	レポート（オセアニアと日本のつながり） リアクションペーパー 調査		
	2.移民と多文化社会にみられる課題	43						
ステップアップ② 各地域の生活文化を比較してみよう。				44	複数の国の衣食住の共通点と相違点を比較する技能が身についたか。	複数の国の衣食住を自然、社会、経済の観点から比較できたか。	意欲的に調べ、自然、社会、経済の影響の観点から追究できたか。	
導入：相互に関連する地球的課題～SDGs								
5 生活圏の諸課題	1 地球環境問題	1.環境問題と持続可能な社会	45	持続可能な社会を目指すSDGsの目標と趣旨を理解できたか。	世界のどこで、どのような地球環境問題が生じているのかを資料をもとにまとめ、持続可能な社会の実現に向けた提案ができたか。	地球環境問題のしくみや原因の理解と問題が人々の生活に与える影響について意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究できたか。	レポート（国際機関から地球環境問題を調べ） リアクションペーパー 調査	
		2.環境を越える汚染	46					
		3.森林減少・砂漠化とその対策	47					
		4.気候変動とその対策	48					
	2 資源・エネルギー問題	1.鉱物資源・エネルギー資源とその課題	49	主題図から資源の分布が偏っていることを理解できたか。	主題図などをもとに鉱物資源とエネルギー資源の分布と今後の将来需要を予測し、SDGsの目標をふまえて今後の必要鉱物やエネルギーの利用について提案できたか。	日常利用されている鉱物資源やエネルギー資源を調べ、その輸入先やリサイクルなどの現状を意欲的に探究し、持続可能な利用について追究できたか。	発表（身近な鉱物資源とこれからの利用） リアクションペーパー 調査	
		2.資源のリサイクル・再生可能エネルギー	50					
		3 人口・食料問題	51	1.人口と人口問題	51	世界人口の増加で生じる問題を世界的視野から理解し、人口増加地域と人口停滞地域における人口問題の違いを整理できたか。	世界の人口問題の現状を資料を比較しながら理解し、人口増加地域と人口停滞地域における人口問題の違いを整理できたか。	グループ協議（サブサハラの人々の生活と食料不足への対策） リアクションペーパー 調査
	4 居住・都市問題	1.発達する都市	55	世界の視野で都市人口率の増加を捉え、都市内部の視野で景観や場所による役割の違いを捉えながら都市の構造を理解できたか。	都市への人口集中を主題図やグラフから捉え、都市と農村の景観を比較しながら考察できたか。	都市の人口集中と都市問題の発生、途上国と先進国の都市問題を通じ、人口集中によって生じる諸問題を資料をもとに考察し、SDGsの目標とともに解決の方策や課題を提案できたか。	発表（都市の過密化の事例とその対策を提案） リアクションペーパー 調査	
		2.都市への人口集中にともなう問題	56					
	ステップアップ③ 「誰も置き去りにしない世界」を考える。				58	SDGsの理念と目標を理解し、多面的、多角的に考察し、課題と必要な解決策を構想することができたか。	SDGsの目標をふまえて、対策が他の課題におよぼす影響について考察できたか。	発表（世界のトイの安全性と対策） リアクションペーパー 調査
	導入：世界地図でとらえる自然災害のリスク							
	6 防災・避難行動	1 日本の自然環境と防災	1.世界からみた日本の地形の特色	59	日本の自然環境の特徴と生活文化との関わりを理解できたか。	日本の自然環境と生活との関わりを主題図や写真から考察できたか。	自然環境の特徴と自然災害とのつながりを意欲的に探究し、過去の災害事例を調べることができたか。	グループ協議（身近な地域の災害予測とその避難行動） リアクションペーパー 調査
			2.世界からみた日本の気候の特色	60				
			3.風水害と防災	61				
4.火山の噴火と防災			62					
5.地震・津波と防災			63					
6.都市型災害と防災			64					
7.防災への心構え～自助・共助・公助～			64					
ステップアップ④ 地図を防災・避難行動に役立てよう。				65	インターネット上の電子地図などを活用し、防災対策を検討する技能を身につけたか。	防災に必要な地理情報を収集し、その資料をもとに避難行動を考察できたか。	発表（世界地図でとらえる自然災害のリスク） リアクションペーパー 調査	
2 生活圏の諸課題と地域調査	1.主題図からみた日本の特徴と課題	66	地域的な課題についての調査法を身につけることができたか。	調査で得られた結果を、主題図や表などに整理できたか。	調査で得られた結果を、主題図や表などに整理できたか。	発表（身近な地域の課題とまちづくりのプラン） リアクションペーパー 調査		
	2.地域調査① 事例地域の選定～事前調査	67						
	3.地域調査② 現地調査～調査地図の作成	68						
	4.地域調査③ 他地域との比較～まとめ	69						
ステップアップ⑤ 地域調査の結果を発信しよう				70	地域調査の結果を発表する方法を理解できたか。	主題図や写真などの資料を用いて考察したことを他者に説明できたか。	発表（身近な地域の課題とまちづくりのプランを模範として発表） リアクションペーパー 調査	

	観 点	内容の特徴
選 択 内 容 の 程 度	学習指導要領の教科の目標に沿った内容編成 必修科目として基本・基礎的な知識・技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> 全ての高校生が履修する地理総合として、教科の目標を達成し、地理歴史科学習の基礎となる知識・技能を過不足なく学ぶことができるよう、全体が編成されている。 日本の領域について、北方領土、竹島、尖閣諸島といった領土に関する課題について適切に取り上げるとともに、海洋国家としての日本の位置付けを理解できるように配慮されている。 日本の自然環境の特色と自然災害について体系的に記述するとともに、教科書を通して身につけた地理的な思考力・判断力をもとに、地域の課題について自分なりの解決策を表現できるよう、工夫されている。
組 織 ・ 配 列 ・ 分 量	内容の構成・配列の適正 学習意欲を高める構成	<ul style="list-style-type: none"> 1つの主題が、「イントロ」「本文」「まとめと探究」という統一した流れで、見開きごとに完結する構成になっており、基礎的な知識が精選して掲載されている。 学習指導要領の項目に沿って、標準的な授業時数で完結するように構成されており、基礎から段階的に知識・技能を習得することができるよう、配慮されている。 中学社会科の地理的分野で学習したことを踏まえ、知識・技能の両面で学習内容を発展・深化させた構成になっており、中高接続への配慮がなされている。 第3章「世界各地の生活文化」では、4つの観点から10の事例を選択できるようになっており、多様性のある世界の生活文化について、幅広い観点から学習できるように配慮されている。
工 指 表 夫 導 記 や に 配 対 す 現 及 び	用語や解説の取り上げ方 図や写真の取り上げ方 指導資料やデジタル教材の充実	<ul style="list-style-type: none"> アニメやスマホゲームを地図学習の題材として取り上げたり、生徒の関心を引きつけるテーマのコラムや豆知識を掲載したりして、学習意欲を高めるための配慮がなされている。 平易な表現で本文を記載するとともに、重要用語を太字で示し、関連箇所への参照ページを明記している。用語も精選されており、必要に応じて用語解説を欄外に記載するなどの工夫がなされている。 二次元コードで動画や資料、関連ウェブサイトへのリンクを掲載するとともに、見開きごとに調査の手がかりとなる「情報源」を掲載しており、生徒の自学自習に対応している。 生徒用のデジタル教科書や準拠版ワークブック、教師用の指導書やICTライブラリなど、周辺教材が整備されており、教科書との組み合わせでより効果的に指導することができる。
の 印 配 刷 ・ 造 本 上	ユニバーサルデザインへの配慮 環境への配慮と印刷の鮮明さ	<ul style="list-style-type: none"> カラーユニバーサルデザイン(CUD)に配慮した色づかいであり、可読性の高いUDフォントを使用しているため、多くの生徒にとって読みやすい紙面になっている。 植物油インクや再生紙を使用しており、地球環境や限りある資源に配慮し、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献している。 発色がよく鉛筆やペンで書き込みのしやすい用紙を使用しており、写真や図版も解像度が高く鮮明で、製本も堅牢である。
総 合 所 見		<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能が過不足なく身につくとともに、多様な世界の生活文化を多面的・多角的に理解できるよう、配列に工夫がなされている。 地図・GISの作業や探究学習を通して思考力・判断力が段階的に身につくとともに、諸課題に対する解決策を考え、自分なりに表現する力が身につくように構成されている。 2単位の必修科目として内容・程度・分量のバランスが取られており、指導しやすく、生徒自らも理解しやすい教科書となっている。

令和4(2022)年度用 二宮書店 地理総合教科書・地図帳 ラインナップ



130 二宮 地総704

地理総合

世界に学び地域へつなぐ

B5判・246頁

基礎から大学入試まで
豊富な題材と鮮度ある情報
地理探究へつながる、事例の充実した教科書



130 二宮 地総705

わたしたちの地理総合

世界から日本へ

AB判・214頁

ビジュアルにアクティブに
世界と日本の今を知る66テーマ
主観型授業をリードする教科書

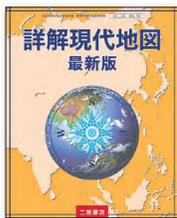


130 二宮 地図704

高等地図帳

B5判・166頁

収録数の多い
世界地図と日本地図



130 二宮 地図705

詳解現代地図

最新版

AB判・182頁

350タイトル以上の
豊富な資料図



130 二宮 地図706

基本地図帳

A4判・166頁

ビジュアル中心で
大きな地図